令和六年度

青少年健全育成作文

優秀作品集

墨田区

墨田区教育委員会

まえがき

青少年が地域社会の一員として多くの人と交流を深め、互いに支え合える社会環境を作ることは、青少年の健全育成と非行防止の推進における重要課題であり、こうした社会環境を作るためには、急速に変化している青少年の意識や考え方、取り巻く環境を大人が理解し、互いに歩み寄ることが必要です。

青少年健全育成作文コンクールは、大人が青少年の意識や考え方について理解を深めることを目的として、毎年行っているもので、「家庭・学校・地域などの生活の中で『人と人とのふれあい』について感じていることや考えていること」をテーマに、作文を募集しました。応募いただいた作文は、「人と人とのふれあい」の中で、日頃感じていること、考えていることなどが率直に表現されており、心豊かな感性に満ち溢れた、素晴らしい作品でした。

今年度のコンクールにも、小・中学校あわせて【４９１４編】と多くの応募をいただき、審査を経て【１７８名】が入賞となりました。ここに入賞作品のうち最優秀賞、優秀賞の42編の作品をまとめましたので、青少年健全育成活動を推進する方々の青少年理解の一助としてご活用いただければ幸いです。

終わりに、本コンクールに応募していただいた方々をはじめ、作品の取りまとめや、審査にご協力をいただいた小・中学校の教員及び関係団体代表者の方々に厚くお礼申し上げます。

令和七年三月

墨田区

墨田区教育委員会

目　次

最優秀賞

○小学校の部

わたしのじまんのいいちゃま……第二寺島小学校　一年　播磨　柑南……1
ぼくのお母さん……錦糸小学校　二年　長沼　奏良……2
家族の大切さ……第一寺島小学校　三年　藤野　紗希……3
勇気をくれたおまじない……業平小学校　四年　岡本　瑠美……4
一緒に食べる幸せ……二葉小学校　五年　小山　陽央……5
忙しい仕事を頑張る父……立花吾嬬の森小学校　六年　大原　祥菜……7

○中学校の部

未来へ繋ぐ、命のバトン。……両国中学校　一年　秋葉　花奈……9
またチャンスはやってくる……竪川中学校　二年　丸山　友梨……10
私の特別なおばあちゃん……本所中学校　三年　高倉　唯……11

優秀賞

○小学校一年生の部

あいぱっとのむこうがわ……外手小学校　太田憲信……13
ばんぐらでしゅからきたもんじゅさん……菊川小学校　森川穂莉……14
わたしとママ……第三吾嬬小学校　櫻井莉里花……14
とうきょうえぇやん……第一寺島小学校　久保欣士……15

○小学校二年生の部

おじいちゃんのやさい……業平小学校　牧野未来……16
はなれていてもそんなのかんけいねえ！……第四吾嬬小学校　藍原由宇詩……17
ひろしまととうきょう、そしてみらいへ……第二寺島小学校　朝日梅乃……18
まねをする妹……第三寺島小学校　平野朔杜……19

○小学校三年生の部

笑顔あふれるファミリーマート……中和小学校　小池智香……21
おじいちゃんのスペシャルチーム……第四吾嬬小学校　中村美晴……22
いろいろな気持ちの伝え方……八広小学校　鈴木紗……23
わたしの大親友……立花吾嬬の森小学校　桑原茉歩……24

○小学校四年生の部

ぼくが野球で学んだこと……両国小学校　蓮澤直太……26
昭和と令和の変化……第二寺島小学校　笠貫良吉……27
おじいちゃんの笑顔……第三寺島小学校　吉野莉愛……28
あそび大学……中川小学校　吉岡紗希……29

○小学校五年生の部

一学年一クラスのすてきなところ……言問小学校　林奏斗……31
簡単な魔法……菊川小学校　野村佳乃子……32
「いってらっしゃい！」……第二寺島小学校　鈴木駿太……33
私のお兄ちゃん……中川小学校　淺賀瑠夏……34

○小学校六年生の部

みんなで支え合っている……錦糸小学校　桑原一楓……36
人とのふれあいで大事なこと……小梅小学校　森本怜誠……37
日本と世界の架け橋に……業平小学校　岡本瑛介……38
本物のつながりって何だろう?……両国小学校　俵　潤……39

○中学校一年生の部

言葉で伝えていく……錦糸中学校　坂井紀心……41
私の理解者……桜堤中学校　奥泉風香……42
自分の気持ちと向き合って……吾嬬立花中学校　髙井はる……43

○中学校二年生の部

朝のあいさつ……本所中学校　照沼陽奈……45
祖母と曾祖母の姿から……桜堤中学校　守屋寛太……46
笑顔の花……吾嬬立花中学校　山田　凛……47

○中学校三年生の部

「ありがたい」を意識して……両国中学校　井苅晄土……49
挨拶で心と心が通じる世界へ……竪川中学校　國安さくら……50
忙しい日常が教えてくれたこと……桜堤中学校　野口素世香……51

○佳作一覧

……53

○講評

……墨田区立第四吾嬬小学校長　清水雅也……58

○審査員一覧

……59

最優秀賞

わたしのじまんのいいちゃま

第二寺島小学校　一年　播磨　柑南

わたしのひいおじいちゃんは、すみだくで60ねんいじょうおいしゃさんをしていたとてもかっこいいひとです。かぞくはみんな「いいちゃま」とよんでいました。いいちゃまはことしの4がつに90さいでなくなりました。

「にゅうがくしきまでさくらがさいているなんてめずらしいね。」と、かぞくみんなでわたしのランドセルすがたをみてわらいあっていたころでした。

しばらくして、わたしはおそうしきというぎょうじにはじめてさんれつしました。わたしのしらないひともたくさんきていました。きれいなおはながならんでいたけれど、とてもしずかで、みんなくろいふくをきていたのですこしドキドキしました。わたしは4さいのいもうとに、おそうしきとはいいちゃまのかおをみることができるさいごのひだとおしえてあげました。すると、いもうとは

「それなのに、なんでみんなないているの？」

と、いいました。わたしもそうおもったので、いいちゃまがだいすきだったたいやきをおりがみでおってあげました。そして、きれいなはなやたくさんのしゃしんといっしょにひつぎにいれてもらいました。すると、それをみていたひとたちがクスッとわらってくれました。わたしは、いいちゃまがなくなってシクシクないていたひとたちのなみだをすこしのあいだとめることができてうれしかったです。なぜなら、びょうきのひとをなおしてげんきにしてしまういいちゃまみたいになれたようなきがしたからです。そのあとは、おそうしきにきていたひとたちが、おいしゃさんをしていたときのいいちゃまのかっこいいはなしをたくさんきかせてくれました。わたしはおかえしに、いいちゃまはあんこがだいすきなことや、いろいろなてあそびでいっしょにあそんでくれたことをはなしました。それをみていたおぼうさんは、

「こじんのはなしをすることが、なによりのくようになりますよ。」

と、いっていました。むずかしくてよくわからなかったけれど、おかあさんが、

「これからもいいちゃまのはなしをたくさんしてね、ってことよ。」と、おしえてくれました。

だから、わたしはいまでもいもうととよくいいちゃまのはなしをします。あめがふれば、いいちゃまがシャワーをしているのかなとわらいます。あんこのおかしをたべるときは、いいちゃまのしゃしんのまえにすこしおすそわけしてあげます。これからも、たくさんのひとといいちゃまのはなしをして、わたしもまわりのひともかっこよくてやさしいいいちゃまをわすれずにいられたらいいなとおもいます。

ぼくのお母さん

錦糸小学校　二年　**長沼　奏良**

「お母さん、大すきだよ。ずっといっしょにいてね。」

ぼくは、いつもねる時にお母さんにこう言います。ぎゅっとだきしめてもらって、あん心してねむることができます。

ぼくのお母さんは、右手と右足がまひしています。右がわのしやもありません。お母さんは、高校二年生の時に、のうしゅようの手じゅつをしました。手じゅつがおわった後、だんだん手足が上手にうごかせなくなってしまったようです。足にはそうぐをつけています。そうぐがないと歩けません。ぼくが生まれた時から、お母さんはしょうがいしゃでした。だから、ふつうに歩けたり、走ったり、ぼくみたいにピアノをひくこともできません。お母さんはかわいそうだと思います。

でも、ぼくのお母さんは、ずっとわらっています。右がわが見えなくても右足がまひしていても、とても元気です。ぼくの友だちのまひしていないお母さんたちを見てもうらやましいなと思ったこともありません。しょうがいがあっても、元気なお母さんが、ぼくは大大大すきです。しょうがいのあるお母さんが、ぼくにとってはふつうのお母さんだからです。

家ぞくで電車やバスにのって出かける時はぼくはいつもお母さんにせきをゆずります。

「お母さん、ここのせきが空いてるよ、ぼくは大丈夫だからお母さんがすわってね。」

と、言います。お母さんのまひしている足がいたくならないように気をつかっています。ぼくがつかれていてもお母さんがゆっくりできるなら、ぼくは、へいきだしうれしいです。

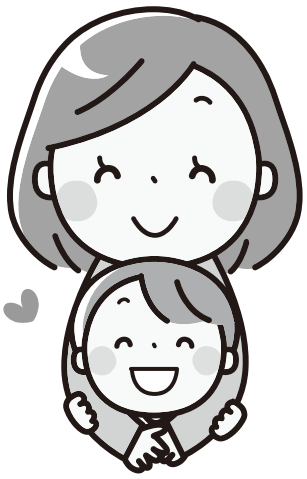
スーパーに買い物に行く時は、買い物のカートは、ぼくがうごかします。お母さんは、右がわのしやがないので、人にぶつかってしまうと大へんだからです。買ったに物が入っているエ

コバッグもぼくとお兄ちゃんがもちます。にもつをもつことは、ぼくにとってはお手つだいではありません。お母さんをたすけるためにしているふつうのことです。

ぼくは、しょうがいのあるお母さんがいるから、人にやさしくすることができるのだと思います。お年よりの人にもせきをゆずれます。小さい子がこまっていたらたすけるし、公園では一人ぼっちの子をさそっていっしょにあそびます。

ぼくは、お金よりもあいが大切だと思います。ぼくには、ゆめがあります。それは、体のどこかにしょうがいがあって、こまっている人のために、しんけいをなおすくすりを作ることです。みんなが元気になって、しあわせな生活ができるようになれば、ぼくもしあわせな気もちになります。

ぼくのお母さんは、自分のいのちよりも大切です。これからもいっしょに元気ですごしたいと思っています。お母さん大すき。



家族の大切さ

第一寺島小学校　三年　**藤野　紗希**

「転きんが決まった。」

去年の夏休みの終わりごろ、お父さんが仕事から帰って来てすぐに、家族を集めて言いました。

「次は福井。」

ふくい？まだ都道府県を習っていない私は、福井がどこにあるのかさえ分かりませんでした。お父さんは、お兄ちゃんと私に「どうする？福井に一緒に行く？それとも東京にいる？」と聞きました。お兄ちゃんはすぐに

「東京にいる。」

と、答えましたが、私はすぐには答えられませんでした。結局、学校や今後のことを考えてお父さんが単身赴任する事になって十月にはお母さんとお兄ちゃんと私だけの生活が始まりました。今までお父さんは、私が寝た後に帰ってきていたので、夜はさみしくないけど、お父さんと会わない日が続くと会いたくなってしまいました。十二月に、お父さんに会いに福井に行きました。お父さんが一人で暮らしている部屋は、広くて寒かったです。今まで家では家事をしていなかったお父さんが、どんな生

活をしているのか心配していたけど、きれいに掃除をしていて、少し安心しました。お父さんは、私に、

「ご飯ちゃんと食べているか。」

とよく聞いてきます。私がお父さんのことを心配しているように、お父さんも私たち家族のことをいつも心配しているのだと思いました。お父さんは、月に二回金曜日の夜に四時間以上かけて東京に帰ってきて、日曜日の夕方、福井に戻ります。三月に北陸新幹線が福井まで開通して、少しだけ早く帰ってこれるようになって嬉しかったです。でも、週末は朝からお兄ちゃんの野球の練習に行くことが多いので、一緒に過ごせる時間はほとんどありません。私はお父さんに、

「さみしい？」

と聞いたことがあります。お父さんは、

「さみしいけど大丈夫。」

と短く答えました。お父さんは、大丈夫と言ったけど、色々大変だと思うし、がまんしていることもたくさんあると思います。私たちを心配させないように大丈夫と言ったのかもしれません。お父さんががまんしているから、私たちは東京で今までと変わらず生活できています。私は、お父さんが単身赴任することになって気付いたことがあります。それは、家族の大切さと、当たり前の生活が当たり前ではないということです。お父さんと過ごせる時間は少ないです。だからこそ、その時間を大切にして、これからは感謝の気持ちをきちんと伝えようと思います。お父さん、いつもありがとう。早くまた、お父さんと一緒に暮らしたいです。

勇気をくれたおまじない

業平小学校　四年　**岡本　瑠美**

去年の夏、ルクセンブルクという小さな国から日本に戻ってきました。ルクセンブルクに住む前はイギリス、ロンドンに住んでいて、日本語を使うのは家族との会話だけでした。

日本に帰国後、あまりなれない日本語で、間違えていないか警戒しながら友達や地域の人々と会話するのは少し大変でした。音読をする時はすごく小さな声だったし、学級会では自分の意見があっても発言できませんでした。このように、日本語に自信が無いため堂々とできず、本当の自分を出せませんでした。

ある時、私の兄が、知らない人に声をかけて一緒にサッカーをしているところを見かけました。またある時は、美術館や博物館で学芸員さんに、自分から疑問に思っている事を聞いたり

自分の意見を話したりする場面を見ました。兄の堂々とした姿を見ているうちに、言いたい事をちゃんと周りの人に伝えて、自分らしくふるまったほうが自分のためになる、と考えるようになりました。

それから少しずつ頑張って、音読の時もっとはきはき大きな声で読む事を心がけたり、自分の意見を勇気を持ってみんなに伝えてみたりしたら、徐々にみんなに本当の私をわかってもらえるようになり、背中に抱えていた重い緊張感がだんだん消えていきました。

このように、学校の友達とは仲良く過ごせるようになりましたが、地域の人達とはなかなか親しく話す事ができず、チャンスがあれば楽しく会話したり助け合ったりできたらいいな、と思っていました。

ある冬の寒い日、重そうな荷物を持ったおばあさんを見かけました。一度は通り過ぎましたが、少し考え「出席番号二十八番岡本瑠美怖いものなし」と心の中でつぶやきました。これは、日本に帰国してから、何か新しい事や怖い事に挑戦する時に心の中で自分をはげますために言っていたおまじないです。

「荷物、持ちましょうか。」

と勇気をふりしぼって話しかけてみると、おばあさんは少しびっくりした顔で、

「ありがとう。えらいね。」

と返事をしてくれました。そのまま少し立ち話をして、私が荷物を持とうかと聞いたのがすごくうれしかった、と話してくれました。その温かくてやさしい声と笑顔は、寒かった私の心と体を一気に温めてくれました。それまで私は、人と関わるのは自分のためだと思っていましたが、おばあさんの喜ぶ顔を見たことで、人と関わるということは自分のためだけではなく、人のためにもなっていると気が付きました。

一年前の恥ずかしがり屋の私はもういないし、あのおまじないも必要ありません。今度は私の言葉を必要としている人達に、私が学んだことを教える側になり、前の私と同じ苦しみを感じている人達を少しでも勇気づけたいです。

一緒に食べる幸せ

二葉小学校　五年　**小山　陽央**

ぼくのおばあちゃんは一人ぐらし。庭で転倒しけがをした右肩の手術をして今はリハビリ中だ。お母さんが毎週手伝いに行き来していたが、夏休み中はぼくが助けにいこうと前から決め

ていた。芝刈り、おふろやリビングのそうじ、料理も手伝った。少しは役に立ったのかな。おばあちゃんは手が不自由なのに、ぼくに食事を用意してくれた。遊びにいくといつも作ってくれるからあげは、しょうゆとしょうがとにんにくがきいていてお母さんのより格別においしい。本当においしいのでうまいうまいと、つい食べすぎてしまった。からあげをほおばるぼくを見ていたおばあちゃんは、にっこりとほほえんでこう言った。

「おばあちゃんはいつも一人で食事をしてさみしいから、一緒に食事ができてうれしかったよ。」

たしかに一人で食べるよりも、誰かと一緒に食べる方がおいしいとより感じると思うし、食べながらおしゃべりするのも楽しい。何よりおばあちゃんによろこんでもらえて、ほっとした。

給食の時間、ついにぼく達は机を近づけて食べることになった。初めはぎこちなく、しばらくは慣れなかった。なぜなら、ぼく達は新型コロナ対策で一年生の時から机を離して食べてきたから、元々の形態を知らないのだ。これまで給食がいくらおいしかったとしても、声に出すことすら良しとされていなかった。だからぼくはおいしいと感じてもジェスチャーで友達に伝えてきた。学校の給食は何度でもおかわりできるほどおいしい。クラスのみんなで

「おいしいね。」

と自然に声をかけ合いながら給食を食べることができる。ささいなことかもしれないが、ぼくにとってはとても幸せなことだと思う。

またこんなこともあった。今年七月に行ってきた那須甲子移動教室。朝、昼、夕食とみんなで手を合わせて食べ始める。夕食の時間、

「みんなで早く食べ終えて片づけたら、部屋でのんびりする時間がつくれるね。」

と、班のメンバー同士ではげまし合いながら食事をした。食べるペースは人それぞれで、食事を通じて仲間を理解することにもつながり、とてもよい経験になった。移動教室の中で食事をとっていくたびに、メンバーとの絆を深めることができたと思う。

以上の三つの体験から、ぼくは誰かと一緒に食事をしておいしさを分かち合うことの良さを改めて感じることができた。そして一緒に食べてくれてありがとうと相手に喜んでもらえた。さらに相手を理解する機会にもなった。

これからも、食事を通じて生まれる、人と人とのつながりを大切にしたい。みんなで食べて笑顔になれる日々がこれからも続いてほしい。

忙しい仕事を頑張る父

立花吾嬬の森小学校　六年　**大原　祥菜**

私の父は、私から見ていつもとても忙しそうだなと思います。帰宅後にもパソコンで仕事をしています。そして、週末は少年サッカーのコーチのお手伝いと、昨年から年番（会計）という神社の役割もしていて、香取神社の大祭の準備のため、振り回されるように、

「行ってきまーす！」

と外出し、夜遅く帰った後もパソコンを広げ、私はまだ寝ないのかなと思って見ていました。

父の仕事は、飛行機の整備士です。最近は、主にパソコンで飛行機の修理の仕方を決めたり、その手順書を作ったりしていました。

今年4月からは、長崎で単身赴任を始めました。

なので、もっと忙しくなったなと思います。

その理由の一つは、お仕事の内容が変わったことです。飛行機の整備から、飛行機の部品の整備になり、その部品を整備する工場の工場長という立場になりました。部下に気分よく仕事をしてもらうための環境作りをしないといけないし、新しく覚えることをしっかり勉強しないといけないそうです。

二つ目は、一人暮らしです。ご飯の用意や洗濯、掃除も自分でやらないといけません。

三つ目は、東京と長崎の移動です。東京の家から羽田空港まで1時間30分、飛行機で長崎空港まで2時間、それから長崎の家まで車で30分、全部で4時間もかかってしまいます。

四つ目は、週末のサッカーのコーチと年番を続けていることです。東京の家に帰ったと思ったら、すぐに用事で出かけます。そして、帰ってくるのは私が寝た後です。

私はそんな父を見て心配しました。きっと私だったら大変過ぎて頭が回らなくなってどれか投げ出しているだろうなと思いました。

私は不思議になって

「お仕事楽しいの？」

と聞いてみたら、父はいい笑顔で、

「飛行機好きだから楽しいよ！」

と言いました。

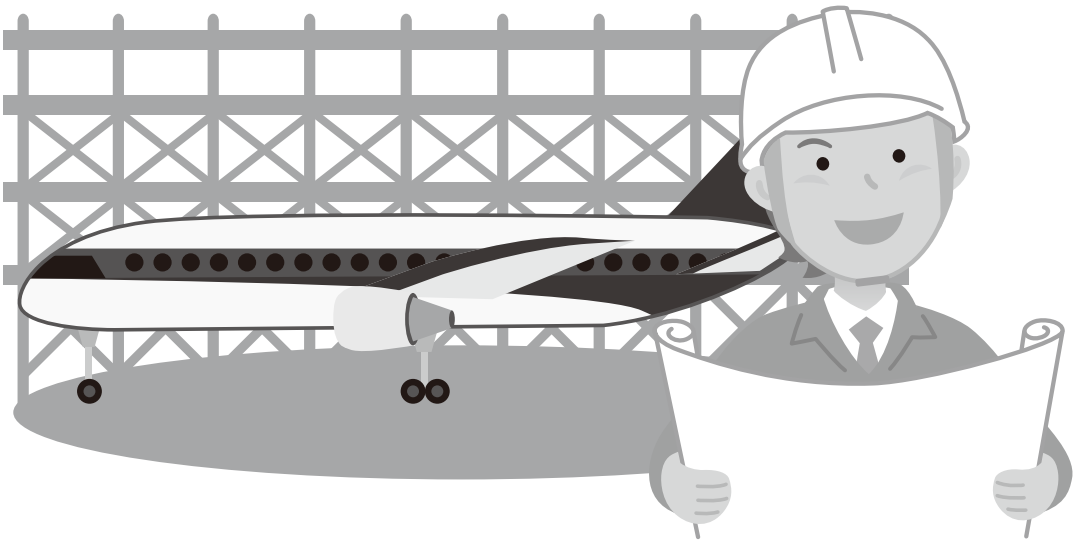
サッカーのコーチになったのはサッカーが好きだからだそうです。

年番では、地域に知り合いが増えることが嬉しく、伝統行事

を体験でき、後世に残す役割を任っていることがやりがいだそうです。さらに、会計の役割になったのは、地域の人に頼まれたからで、なぜ父なのか聞いたら、責任感が強くて、社交性と協調性があって、一生懸命やる人だからだったそうです。

私は今回父に話を聞いて、家ではふざけたりして楽しい父だけど、外ではしっかり頑張っていてすごいなと思いました。

私も大人になったら父のように人と人とのつながりを大事にできる人、人と力を合わせて物事をやり遂げられる人になりたいなと思いました。父はいつも私を元気付けてくれます。忙しくても、頑張っている父に感謝の気持ちでいっぱいです。



未来へ繋ぐ、命のバトン。

両国中学校　一年　**秋葉　花奈**

私の家族には、九十二歳の祖母がいる。その祖母が昨年末、心臓に関わる病で急に倒れた。一命を取り留めたものの、今も重篤な状態が続いている。

私は物心ついた時から祖母と一緒に暮らしており、常にいるのが当たり前の生活をしていた。今まで病気らしい病気をほとんどした事が無かったため、今回、目の前で倒れた事は私にとって大きなショックとなり、今まで感じていなかった命の終わり、命の限りがある事について実感するようになった。

家族である私達が奔走したのは勿論の事、たった一つの命を守るために、医者や看護師、薬剤師、ケアワーカーや老人施設の方々等、沢山の人々に助けられている事を感じた。

母と私の二人で、祖母のお見舞いに行った。元気そうだったが、やはり倒れる前よりかは少し弱っていた気がする。救急車で運ばれた時、彼女がまず最初に話した言葉は、「苦しい」だった。とても胸が締め付けられて見ている私も辛かったのを覚えている。そしてもう一つ、忘れられない言葉がある。それは、「楽にゆきたいなぁ」だった。彼女が何気なく放った一言に、私は「ああ、そうだよな。痛かったり苦しいのは嫌だよなぁ。」と共感しながらも、「頑張って長生きしなきゃダメだよ！」と言う言葉しかかけられなかった。

祖母の事がきっかけで家族と、特に母から祖母の若かった頃から今に至るまでの話を聞くようになった。するとある日、母が真剣な表情でこう話し始めた。

「若い頃は自分も親も、周りの友人達もみんな元気だから、死への実感はあまり無いし、いつも〝次がある〟〝時間はある〟と思っていたのよ。でも、年を経ていくと、命に限りがある事や一つの流れの中に自分の命がある事が段々分かってくるかな。」

私は今十二歳で、まだ時間があると思っているけれど、いずれ歳をとるにつれて死に近づく時がやってくるのだな、と母の発言に気付かされた。また、初めて聞く若い頃の祖母の話はどれも新鮮味があり、彼女にも若い時代があったのだと改めて感じさせられた。

人は、一人では生きていけない。周りと助け合い、支え合いながら生きていくのだ。私が今生きているのは、何百、何千と言う気の遠くなるような多くの人々が次へ、次へと命のリレーを続けてきてくれたからだと私は考えている。周囲の人々との繋がりが一人一人の一生を創って自分の所までやってきた。このリレーを終わらせないためにも、私は自分に与えられた時間、人生を大切にして、未来に残る命のバトンを繋いでいこうと思う。

またチャンスはやってくる

竪川中学校　二年　**丸山　友梨**

「そんなことで泣いているのか」

この言葉をかけられた時、泣きすぎて顔がはれてしまった私は、きょとんとしてしまった。

「どういうこと？それはないんじゃない？」

と悲しさと少しの怒りが混ざった。

涙が枯れるほど泣いてしまった理由は、区の海外派遣事業の最終選考に不合格だったからだ。小学生の頃から、行ってみたい気持ちが強く、日本文化を学んだり、人前に出て話をしたりと、さまざまな経験をしてきたと自負して面接に臨んだ。それだけに、まさか落ちると思っていなかった。それほど自信をもって挑戦した最終選考だったのだ。だから、不合格と知った時は、今までの経験を否定され、さらに、生きてきたことすべてを認めてもらえなかったと感じ、悔しさと悲しい気持ちがあふれ出てしまった。

合格発表の翌日、行き場のない気持ちを整理するために、中学校にあるＳＳＲ（校内スモールステップルーム）で、本を読んだり、勉強していたり、ぼーっとしたりしていた。そんな私に、「何かあったのか」と問いかけてくれたのはＳＳＲの先生だった。あまり気が乗らなかったけれども、気がついた時には口から、海外派遣事業に落ちたことを話していた。最後まで話を聞いてくれた先生がかけてくれたのが、冒頭の言葉だった。

実は、冒頭の言葉にはこんな続きがある。

「今、海外に行って、君の英語力で伝えたいこと、全てを伝え切れたかな。不合格ということは、今じゃなかったのかもしれない。今、留学制度はたくさんある。次のチャンスまでに英検準一級でも、一級でも取得すればいいじゃないか」

その言葉に、パっと顔が上がった。

青天の霹靂とでも言うのだろうか。そのとたん、私は新しい目標が決まったような気がした。私に必要なのは、英語力を向

上させ、もっと教養を身につけることだと思った。もっと英語を使ってコミュニケーションが取れる自分に成長したい。不合格通知を受け取った時は、どんなに努力しても、結果がついてこなければ、意味はないのではないかと思ってしまっていた。しかし、たとえ、不合格だったとしても今まで経験してきたことが失われるわけではない。いつか必ず、それが役に立つことがあると今はもう、そう信じられる。

あれから、私はＳＳＲの先生に一度も会うことができていない。名前も顔も思い出せないけれど、あの日、先生に出会えていなければ、今も下を向いていたであろう。これからも、心が折れてしまうこと、立ち止まってしまうことがあると思うが、今回の経験を思い出して、あきらめずに目標に向かって挑戦し、私は走り続けたい。

私の特別なおばあちゃん

本所中学校　三年　**高倉　唯**

私には祖母が三人います。一人目は父方の二人目は母方の、そして三人目は向かいに住んでいます。先に言ってしまえば、三人目の祖母は血縁関係は全くなく、近所のおばあさんに過ぎません。しかし、それでも祖母と言い切れるのには、これまでの十五年間の中に詰め込まれた多くの思い出があるからです。

一つ目は町内会でのこと。私は幼少期、フラダンスをやっていたことがあります。その際、優しく丁寧に指導してくれたのが三人目の祖母でした。ある時、私が上手く踊れない上、緊張して戸惑っていると、

「緊張しなくていいんだよ！踊るのだって練習してけば上手くなる！」

と明るく声を掛けてくれました。その言葉をきっかけに、私は段々と心を開けていけるようになったり、フラダンスも上達していったと今では思います。

二つ目は浴衣の着付けでのこと。浴衣を着る機会があった時、私は誰か着付けをやってくれる人を探していました。そして現われたのはまたしても三人目の祖母だったのです。祖母は私の

無理なお願いにも、何の躊躇いもなく付き合ってくれました。その優しさは、私が思うに、近所の子供と近所のおばあさんという関係では私の元には届かなかったと思います。

そして三つ目。それは朝の何気ない会話と挨拶です。私は学校へ行く時間、祖母を含む近隣の人に会うことが多くあります。そしてその時は必ず挨拶と、

「今日も頑張ってね。行ってらっしゃい。」

「ありがとう。行ってきます。」

なんていった、ちょっとした会話を交わします。それがいくらちっぽけな会話だとしても、それが私の一日の原動力に繋がります。小学生の頃は、自分から挨拶をすることを躊躇していた私だったけど、今になっては自分から挨拶をすることが私の中で決まり事になり、たった数秒の時間だとしても、その時間を大切に過ごせています。

もちろん、これら以外にもたくさんの思い出が私の中には詰まっているけれど、この三つのことを踏まえて、私は心から「近所のおばあさん」を「三人目の祖母」だと言い切れるのです。また、祖母自身も、私のことを自慢の孫だと言ってくれます。この言葉を、いつ・何度聞いても心が温まり、これからも頑張ろうと思えます。そしてこの経験こそが、私の人との関わり方に対する思いを変えてゆくことになったと思います。これからはより一層、私の近くにいてくれている人の存在を意識して、かけがえのない日々を大切に生きていきます。それから、このことを気付かせてくれた祖母への感謝の気持ちを忘れることがないよう、しっかりと胸に留めておくことを誓います。

おばあちゃん、本当にありがとう！

優秀賞

あいぱっとのむこうがわ

外手小学校　一年　**太田　憲信**

ぼくは、じいじとばあばがだいすきです。じいじとばあばは、ながのけんにすんでいます。だからなかなかあえません。だけど、ちいさいころは、ながのにあそびにいったことがあります。しんかんせんにのってじいじばあばのおうちへいくのがたのしかったし、じいじとばあばといっしょに、おいしいごはんをたべたり、あそんでもらったりしました。

でも、じいじがびょうきになってしまいました。じいじにかぜがうつったらよくないから、なかなかあそびにいけなくなってしまいました。

あえなくても、じいじとばあばは、いつも、あいぱっとをつかって、がめんのむこうがわからぼくのめんどうをみてくれます。たとえば、ままがおねえちゃんをならいごとにつれていくとき、おるすばんをしているぼくといっしょにはなしてくれます。ぼくがかみひこうきをとばしているところをみてくれて、

「すごいとぶね。」

といいました。ぼくがうるとらまんをみせたときは、じいじもうるとらまんをみせてくれました。

ぼくがとくいなうたをうたっているとき、ままが、そのようすをでんわで、じいじとばあばにみせていました。じいじとばあばは、

「うまいね。」

といってはくしゅをしてくれました。

ぼくのたんじょうびには、じいじとばあばもあいぱっとのむこうがわから、いっしょにはっぴいばあすでいのうたをじょうずにうたってくれました。うれしかったです。

じいじがびょうきになったときは、しんぱいになったけど、あいぱっとでかおをみておはなししたら、じいじがげんきなのがわかりました。

はなれていてもあえなくても、あいぱっとでかおをみてはなしていると、ちかくにいるみたいにおもうけど、ほんとうにあうのとはすこしちがうから、やっぱりあいたいです。

ばんぐらでしゅからきたもんじゅさん

菊川小学校　一年　**森川　穂莉**

わたしは、このなつやすみに、にほんごのべんきょうをしに、ばんぐらでしゅからきたもんじゅさんにであいました。もんじゅさんは、べんがるごと、えいごと、にほんごがすこしはなせます。はじめてあったとき、にほんごで、

「げんきですか？」

と、きいてきてくれたとき、とてもうれしいきもちになりました。わたしも、もんじゅさんによろこんでもらいたいとおもい、べんがるごで

「けもなちょ？」

ときました。すると、よろこんでくれました。あいてのくにのことをあまりよくしらなくても、かんたんなあいさつをおぼえておくだけで、あいてとこころのきょりがちかくなったようなきがします。

わたしは、このであいをきっかけに、もっとたくさんのがいこくのひととはなしてみたくなりました。まずは、どんなくにがせかいにあるのかをしるために、こっきをほんでしらべたり、おぼえたりしています。もんじゅさんも、にほんのあにめをみてからにほんのことをすきになったそうです。

ばんぐらでしゅのひとがにほんにくることはかんたんではないので、にほんごをべんきょうしにこられて、ほんとうによかったなとおもうし、がんばってほしいなとおもいます。わたしもまた、もんじゅさんによろこんでほしいので、べんがるごをべんきょうしたいです。

わたしとママ

第三吾嬬小学校　一年　**櫻井　莉里花**

あさがくると、めざましどけいがなります。ママは、めざましどけいを、わたしのみみのよこにおきます。

「おはよう。」

とこちょこちょがまいにちのたのしみです。いつもギューしてっておねがいをします。ほんとうは、もうひとりでねるやくそくをしていますが、ママといっしょがいいです。おとなになるまで、ずっといっしょがいいです。なんで、だめなのかなぁ？

わたしはなんで、うまれてきたのってママにきいたら、りりちゃんにあいたかったんだよっていわれました。りりちゃんが

だいすきだよっていってくれました。わたしもママがだいすきだよ。でも、いっぱいおこられます。ママがおににへんしんすることもあります。

らくがきをしたり、
ごはんであそんだり、
おねえちゃんとけんかをしたり、いろんなことで、おにはでてきます。こわくて、ないてしまうこともあります。

ごめんねママ。
でもね、いたずらってたのしいよ。
わくわくしちゃうんだよ。
きっとまたやっちゃうよ。
だから、そのぶん、おてつだいするよ。
いっしょに、おりょうりも、おせんたくも、もっぷがけもするよ。

ママといっしょなら、おてつだいはたのしいよ。
がんばっておてつだいをしたひは、ハンバーグをつくってね。
ママだいすき。

とうきょうええやん

第一寺島小学校　一年　**久保　欣士**

ぼくは、２ねんまえのふゆとうきょうに、ひっこしてきた。おおさかでうまれてはじめてのとうきょう。すこしこわかった。ともだちはできるかな、おねえちゃんがいってたけど、とうきょうべんはこわいかな。

ぜんぜんこわくなかった。ことばもなれたしともだちもいっぱいできた。

おおさかのときはマンションにすんでいてあまりきんじょのひととはなさなかったけれど、いまはよこのいえのおばあちゃんにじてんしゃのれんしゅうをみてもらえるし、むかいのおじいちゃんはいつもえがおであいさつしてくれる。

おばあちゃんは、
「うまいね。」
とほめてくれる。おじいちゃんはいつも
「おはよう。あさがおきれいだね。」
といってくれる。
なんかいい。とうきょうおもっていたよりえんやん！

小学校　二年生の部

おじいちゃんのやさい

業平小学校　二年　**牧野　未来**

わたしのおじいちゃんは青森にすんでいます。

わたしはまい年夏休みには青森にとまりに行きます。今年も青森でおばあちゃんが作ったおいしいごはんをたべたり、いとこと海に行ったりたくさん楽しいことをしました。

けれども、わたしが一ばん楽しみにしていたのはおじいちゃんといえのにわにあるやさいばたけのお世話をすることです。

まい朝、おじいちゃんは、あつい中、あせだくになりながら水をまきます。

「わたしもやりたい。」

と言い、やってみましたが、ホースがとてもおもくて大へんでした。こんなにつかれることをおじいちゃんはまい日やっていて、すごいと思いました。

ほかにも、やさいをしゅうかくする作ぎょうもしました。なすのへたはチクチクしていたく、虫はいるし、どろだらけになり、大へんでした。でも、おじいちゃんが

「みらいは大きいきゅうりを見つけるのがうまいね。」

と、ほめてくれたのがうれしくて、バケツに山もりのやさいをしゅうかくしました。

そのあとすぐにいえの中にもどりましたが、おじいちゃんはまだはたけしごとをがんばりつづけていました。そして、そのとれたてのやさいで作られたマーボーナスは、とてもおいしくてびっくりしました。

これも、おじいちゃんがまい日、一生けんめいやさいのお世話をしてくれているからだと思います。

わたしはこれから、おじいちゃんのようにたべものを作っている人たちにかんしゃをして、ごはんをのこさずたべていきたいと思います。

はなれていてもそんなのかんけいねぇ！

第四吾嬬小学校　二年　**藍原　由宇詩**

ぼくはおわらいげい人になりたいです。なぜならおわらいげい人になったら、おきゃくさんをえがおにすることができるからです。

ぼくはあい方をさがしています。いっぱい友だちをさそったけれど、ことわられてしまいました。そこで、お兄ちゃんもさそってみました。けれども「はずかしすぎてムリ。」と言われてしまいました。ガガガガーン！！あい方が見つからないなら、ピンげい人を目ざせばいいのではと、お兄ちゃんがていあんしてくれました。でもぼくは、だれかときょう力してコントを作りたいのです。一人より二人の方が、おきゃくさんをもっとえがおにできるからです。それにはずかしさは半分です。

そしてついに、あい方が見つかりました！あい方の名前は、ももかさんです。ももかさんは、やさしくて、ツッコミが上手な女の子です。ある時、近じょに、キングオブコント二〇二三王じゃのサルゴリラさんがさつえいにきました。その話をももかさんにおしえました。すると「わたし、ようち園の時、エムワンに出ようとしたけれどしめきりに間に合わなかったんだよねぇ。」と、ももかさんが言いました。ビビビビビビックリしました！ぼくはその場であい方になってくれないかとたのんで、ＯＫをもらいました。コンビ名は「カウピーチ」です。ユウシのウシとモモカのモモをえい語にしました。

カウとピーチはクラスのイベントがかりになりました。学活の時間にクラスのみんなと先生の前でねんがんのコントをひろうします。ピーチがだい本を書いた「てるてるげき場」は大ウケでした。自ゆうちょうにコントのだい本を書いてだめ出しし合ったり、休み時間にれんしゅうしたり、日じょうでもボケとツッコミのうでをみがきました。さい高でした。

ところがさいあくのじたいがおきました。なんとピーチがてん校することになったのです。ぼくはなきました。すごくなきました。でも、ピーチはいつでもえがおでみんなをかなしませない人です。ぼくは立ぱだなと思いました。ピーチをまねしたいと思いました。

カウピーチは、文通をはじめることになりました。なのでコンビかいさんのききはまぬがれました。文通のやりとりでこれからもコントを作れることになりました。それに、早ければ、二、三年でかえってこれるそうです。ぼくはピーチをまちます。はなれていてもそんなのかんけいねぇ！コンビはコンビのまま。

ピーチがさいごに学校にくる日、お楽しみ会をしました。金ぎょすくいやわなげなどがありました。楽しかったです。ピーチも楽しそうでした。さいごまでえがおのみでした。

ぼくはピーチからみどりのみつあみのブレスレットをもらいました。今、そのブレスレットを手につけてこの作文を書いています。ピーチ、新しい学校でもがんばれよ！カウもえがおでがんばるよ！ピーチ、まってるよ！

ひろしまととうきょう、そしてみらいへ

第二寺島小学校　二年　**朝日　梅乃**

わたしは、とうきょうにすんでいますが、夏休みになると、ひろしまにいるおばあちゃんのいえにいくのがたのしみです。ひろしまは、しぜんがたくさんあって、川や山がひろがっていて、とてもきれいなばしょです。

でも、ひろしまには大せつなれきしもあります。それは、せんそうのときに「げんばく」というばくだんがおとされたことです。

ひろしまにいくたびに、おばあちゃんはせんそうのことを話してくれます。ある日、おばあちゃんといっしょにへいわきねん公園にいきました。そこには、げんばくでこわれたたてものがありました。おばあちゃんは、

「ここでたくさんの人がいのちをうしなったんだよ。」

と、おしえてくれました。それを聞いて、わたしは、とてもかなしくなりました。

そして八月六日には、「とうろうながし」にさんかしました。夜になると、川にたくさんのとうろうがうかべられ、やさしい光がひろがってながれていきました。とうろうには、「へいわをねがう」とか「これい上せんそうがありませんように」といった言ばが書かれていて、それを見たとき、わたしは、へいわの大せつさをつよくかんじました。

わたしがかよう二てら小は今年百しゅう年目をむかえました。この学校もせんそうのえいきょうをうけたことがありました。せんそうのせいで、たくさんの子どもたちが学校にいけなくなったことがあったそうです。でも、せんそうがおわったあと、ちいきのみんながきょう力して学校をたてなおし、また子どもたちが学べるばしょにもどりました。百しゅう年をむかえたこの学校を見ると、ちいきの人たちがどれだけ学校を大せつにしてきたかがわかります。

わたしにとって、ひろしまととうきょうのりょうほうが大せ

つなばしょです。ひろしまですごすじかんや二てら小の百しゅう年をいわうことで、ちいきの人たちがどれだけへいわとみらいを大せつにしているかをかんじます。これからも、ちいきの人たちとのかかわりを大せつにしながら、へいわなみらいをみんなでつくっていきたいと思います。

まねをする妹

第三寺島小学校　二年　**平野　朔杜**

ぼくの妹の名前は、まほのです。「まほちゃん」とよんでいます。いま一さいです。まだ、しゃべれないけれど一さいになる前にあるけるようになりました。

まほちゃんは、ぼくのふでばこをすぐもっていって、中みのえんぴつやけしゴムを出してしまいます。そして、プリントにらく書きまでします。そういうとき、ぼくはおこってとりあげます。するとまほちゃんは、ないてはしって行って、ママにアピールをします。

なぜ、妹がふでばこをもっていくかというと、ぼくのまねをしたいからだと思います。まねをされるのはいやです。出されたものをかたづけるのも大へんです。

妹がかわいいというときもあります。ふとんでぼくがジャンプをすると、まほちゃんもまねをします。ジャンプはまだできないけれど、りょう手をパタパタして、せのびみたいなことを何どもします。と中つかれてすわってしまうけれど、ぼくがよこでもっとジャンプをすると、まほちゃんは、キャッキャッとわらいます。まねをされることはいやだけどそんなときは、かわいいです。

考えてみるとぼくもまねをしていました。ぼくはじつは三人きょうだいのまん中です。一ばん上のお兄ちゃんは十さいで、五年生です。ドラえもんのまんがをお兄ちゃんが読んでいるとき、ぼくもまねをしてドラえもんを読みます。お兄ちゃんが読んでいると、なぜか読みたくなるからです。まねをすると、ちょっと楽しくなります。でもそういうとき、お兄ちゃんは「すごくいやだから、やめて。」

といいます。しかたがないので、本とうは読みたいけれどやめます。まほちゃんにまねをされて、お兄ちゃんの気もちがすこしわかりました。

でも、お兄ちゃんが、

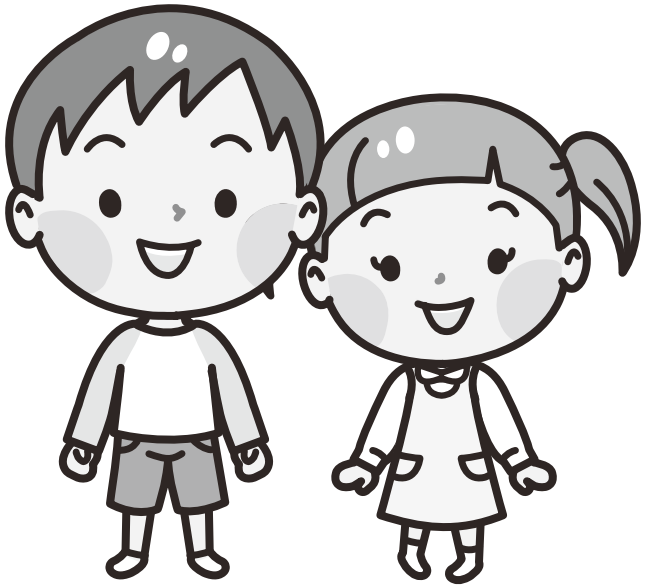
「まねをしていいよ。」

というときもあります。いっしょにでん車であそぶときです。

そういうときは、とても楽しいです。

まほちゃんも、ぼくのまねをして、きっと楽しんでいるんだと思います。そして、まねをすると、しらなかったジャンプをおぼえたり、さい近では、スプーンをもってたべたりしています。まねをするということは、せいちょうすることだと思いました。

これからまほちゃんが大きくなって、もっとまねをしてきたとき、ぼくはまたおこってしまうかもしれません。でも、まほちゃんはやっぱりかわいいし、せいちょうしてほしいので、まほちゃんがまねをしても、楽しくあそんであげて、大せつにしたいと思います。



笑顔あふれるファミリーマート

中和小学校　三年　**小池　智香**

「今日も来たよ！」

ファミリーマートに行くたびに私はそう言っています。私は、今日もファミリーマートに行きます。それは、買い物のためだけではありません。店員さんに会いにいくためでもあるのです。

私がおつかいに行くと、いつも笑顔でやさしく話しかけてくれます。ほしいものをいっしょに探してくれたり、おつりを落とさないようにふくろに入れたりしてくれたこともありました。たくさん親切にしてもらいましたが、その中で、今でも感謝していることがあります。

それは、二年生の時でした。学校から帰ると母がまだ帰っていません。かぎを持っておらず、家の中に入れなかったのです。私はまようことなくファミリーマートに行きました。この時間はいつものあの店員さん。あの人なら、かならず助けてくれると思ったからです。お店で相だんすると、店の中で待たせてもらえました。私はそのとき、「ファミリーマートが近くにあってよかった。」と心から思いました。ファミリーマートがなかったら、ドアの前でずっと母の帰りを待つことになっていたはずです。

今、私のへやにカラフルなワンピースがあります。それは、仲よくしていた店員さんがやめるときにくれたものです。もう一人、仲よくしていた店員さんは、たまに店にもどってきて、今でもあいさつをすることがあります。ひさしぶりに会えると、とってもうれしくなります。

そして、一つ大事なことを教えてくれました。それは、

「まごころがあれば、みんなを笑顔にできるんだよ。」

という言葉です。私は、その言葉がすごく心に残りました。その言葉を聞いてから、前よりも、落ちこんでいる友達や、いやな気持ちになっている友達を見つけると、笑顔になるよう声をかけるようにしています。これからも、ファミリーマートの店員さんのように笑顔で話しかけ、みんなに笑顔になってほしいです。

そして、私はやっぱりあのファミリーマートが大好きです。これからもずっと大好きでいたいです。

おじいちゃんのスペシャルチーム

第四吾嬬小学校　三年　**中村　美晴**

わたしには、いっしょに住んでいるおじいちゃんがいます。おもちゃを作ってくれたり、何でも教えてくれるとても物知りなおじいちゃんです。今、おじいちゃんはおもちゃを作っていないけれど、おじいちゃんが作ってくれたカメのブリキのおもちゃはわたしのたから物です。それに友だちもたくさんいます。カラオケやごはんにさそってくれて、いつも楽しそうです。でも、おじいちゃんは足がわるいので、友だちがむかえにきてくれます。家族で出かける時は、かた手でつえをついて、もう一方の手はわたしがささえます。

おじいちゃんは、わたしが二年生の時、足の調子がわるくて家から出られない日がつづきました。だから少しでもよくなるようにわたしたちは足ゆをしました。おじいちゃんも週に一回リハビリに通いました。それでも足がいたくてなかなか家から出られませんでした。

そんなおじいちゃんに、今年になってスペシャルチームができました。一人目はお医者さんです。ほう問いりょうの先生で家まで来てくれます。いっしょにマッサージしてくれる先生も来てくれます。次はリハビリの先生です。おじいちゃんは二つのリハビリをしています。一つ目は友だちの先生がいて、ていねいにリハビリをしてくれます。二つ目は先生が家まで来て、かいだんを登る練習などをしてくれます。そして、かんごしさんも来てくれます。おじいちゃんの体調を聞いて、生活のアドバイスをしてくれたり、お医者さんと薬の相だんをしてくれます。さらに、家まで薬をとどけてくれる人もいます。毎日のむ薬をわかりやすく分けてくれます。さい後に、ケアマネージャーさんです。この六人の先生たちにおじいちゃんのお世話をおねがいしてくれました。みんなで集まっておじいちゃんの体について話し合いもしてくれました。

おじいちゃんは足がわるいのでびょういんへ行くのは大へんだし、まっている間に具合がわるくなってしまうこともありました。今はみんなが来てくれるので、とても助かるそうです。この六人のおかげでおじいちゃんの体調はどんどんよくなっています。

わたしは、おじいちゃん一人のために、こんなにたくさんの人がかかわってくれていることにおどろきました。大雨の日も、あつい日も、みんなえ顔で来て、やさしく声をかけてくれるのですごいなと思いました。おじいちゃんの先生たちが明るく

せっしてくれるので、おじいちゃんもうれしそうです。わたしもおじいちゃんの先生たちみたいにだれにでもえ顔で、やさしくしたいな、と思いました。

いろいろな気持ちの伝え方

八広小学校　三年　**鈴木　紗**

わたしはふだんから自分の気持ちを友だちや家族にいろいろな方法で伝えています。例えば、友だちに伝えるときには大すきな気持ちをお手紙に書いたり、知らない子には自分から話しかけてなかよくなったりします。家族には父の日、母の日に、絵をプレゼントしたり、あいさつで気持ちを伝えたりしています。

わたしは、気持ちを伝える中でうれしかった出来事があります。それは、わたしが習っているバレエの発表会での出来事です。わたしのおどりがおわると、みんなが心のこもったあたたかいはく手をしてくれました。そのはく手には「すばらしい。」「練習おつかれさま。」などいろいろな気持ちがこめられていてやってよかったなと思いました。わたしがゆめのような時間をすごせたのは周りの人のおかげです。なので、先生にはみんなで色紙をプレゼントし、お母さんやお父さんには感しゃの言葉を伝えました。思いを伝え合うことは、とてもすてきなことだと思いました。

わたしはミニバスも習っています。そこでもうれしい出来事がありました。し合でシュートが入ったときに「ナイシュー」と言ってくれたことです。きんちょうしたけれど、みんなのおうえんのおかげでやる気がもえ上がるように出てきました。もう一本シュートを決めようとも思いました。おうえんしてくれることは、すばらしいことだなと思いました。

人にはいろいろな伝え方があります。例えばメールをする、ジェスチャーをする、音楽をかなでる、お手紙を書く、絵で伝える、電話で話す、手話で伝える、泣く、わらう、おこる、かなしむ、よろこぶなどの感じょうを表げんするのです。そのなかでもうれしい気持ちや感しゃの気持ちをお手紙に書くことがとても大すきです。メールや電話などもべんりだけれど、お手紙や絵に思いをこめると、相手もうれしいリアクションをしてくれます。いろいろな気持ちの伝え方があるけれど、思いのこもった気持ちの伝え方が広がったらいいなと思います。

わたしの大親友

立花吾嬬の森小学校　三年　**桑原　茉歩**

わたしには、ほいく園の時から一番仲のいい友だちがいます。登校するときも、学童に行く時もいっしょで、毎日遊んでいます。学童では、おもちゃで遊び、休みの日には、おたがいの家でゲームをしています。好きなキャラクターが同じだったり、いっしょに水ぞく館に出かけたりと、とても仲よしです。

しかし、仲のいい友だちでも、ひとつ気になっていることがあります。それは、けんかをしたときは、あやまってくれるのですが、ぶつかってしまった時やちょっとした言葉の使い方で気になってしまった時などには、あやまってくれないことです。「なぜ、こういう時にはあやまらないのかな」と気になっていました。すぐにあやまれば、かいけつすることなのに、どうしてあやまらないのか、ふしぎに思っていました。本当は直せつ「どうしてあやまらないのか」を聞いてみたかったけど、聞けませんでした。親友だし、いっしょにいて楽しかったので、「気にしないようにしよう」と思っていました。

ある日、その子と遊んでいたら、わたしとぶつかってしまいました。「あっ、ぶつかっちゃった」と思っていたら「ごめんね。」と友だちから言ってくれたのです。「ごめんね」のその一言で、わたしはびっくりした気持ちになった後、とてもうれしい気持ちにもなりました。「ごめんね」と言ってもらえたおかげで、その子と安心してもっと遊びたいという気持ちになりました。

しばらくして、その子がわたしに教えてくれました。「わたし、ごめんねって言えるようになったんだ。」わたしは、またとってもうれしい気持ちになりました。わたしは「よかったね。」と言いました。本当は「言えるようになったのはすごいゆう気があるね」と、その子につたえたかったです。

今まで「ごめんね」が言えなかったのは、はずかしい気持ちがあったり、悪気がないからあやまらなくてもよいという気持ちがあったりしたのかもしれません。それなのに、言えるようになったわたしの親友は「すごい」と思います。

わたしはこのことを通して、「ごめんね」や「ありがとう」の一言で、相手にたいしての気持ちが、ぐっとかわることがわかりました。わたしにも、言いたくてもはずかしくて言葉が出てこない時があります。でも、この日のことをわすれずに、「ごめんね」や「ありがとう」という一言やあいさつを、しっ

かりつたえることができる人になりたいです。そして、どんな人とでも、楽しくすごしていける毎日にしたいです。

小学校　四年生の部

ぼくが野球で学んだこと

両国小学校　四年　**蓮澤　直太**

ぼくは、地いきの野球チームに入っています。二年生の時に公園でボール遊びをしていたら、チームのかんとくにさそわれて、野球を始めました。野球を始めたばかりの時は、キャッチボールもできませんでしたが、四年生になった今はレギュラーでし合に出ています。

野球チームでは、たくさんのお父さんやお母さんたちがチームのために仕事をしてくれます。かんとくやコーチは、チームメイトのお父さんです。ぼくの父も今年かんとくをしています。練習の日は、かんとくやコーチがバッティングや守びの仕方を教えてくれます。し合の時には、はげましてくれたり、ほめてくれたりします。また、かんとくやコーチではないお父さんやお母さんにも、やさしく声をかけてもらえます。ぼくが野球を上手になっているのは、お父さんたちがていねいに教えてくれているおかげです。ぼくは、お父さんやお母さんたちに、

「直太、今日のし合、良かったよ。」

と、言ってもらえることがとてもうれしいです。ぼくの感しゃの気持ちが伝わるように、いつも礼ぎ正しくあいさつすることを心がけています。ぼう子を取って、おじぎをして大きな声でお礼のあいさつをしています。

ぼくは、キャッチャーのポジションでし合に出ることが多いです。その時に心がけていることは、みんなを良く見ることです。みんなの表じょうを見ると、みんなの気持ちが良く分かります。とくに、ピッチャーの気持ちを考えて、

「落ち着いていこう。ドンマイ。」

と、声をかけています。また、ピッチャー以外にも、みんなが、し合に集中できるように気を配っています。自分のことだけではなく、チームみんなで力を合わせることを大切にしています。

チームには、様々な学年のチームメイトがいます。年下の子には、やさしく教えています。年上の人には、そんけいする気持ちをもって、野球の技じゅつやたい度を見習うようにしています。一人一人、学年やせいかくがちがうけれど、一しょに野球ができて楽しいです。

ぼくは、野球を通して、野球の技じゅつだけではなく、感しゃする気持ち、礼ぎ、あいさつ、思いやりを学ぶことができました。これからも、人とのかかわりを大切にして、野球を楽しみたいと思います。

昭和と令和の変化

第二寺島小学校　四年　**笠貫　良吉**

今、時代は令和。便利な物がたくさんありますが、便利だからといって人々の生活は快適なのでしょうか。では、便利な物ができる前の「昭和」という時代と比べてみましょう。

昭和は、便利な物が少ないので多くの人は、便利な物が欲しいと人々はたくさんの夢をもっていました。それに対し、令和の人々は、「ＡＩ」の機能にたよっていて満足をしてしまい、これから人間による活躍がなくなってしまうのではないかと良くない未来を想像してしまう人もいます。例えば、皆さんがよく行くレストランでのことです。昭和では、レストランでメニューを注文する時、必ずコミニュケーションがあり、人間同士の会話があったことで分かち合えました。令和ではＡＩの機能を増やして、お店の人が食べ物を運んだり作ることはありますが、注文した食べ物をロボットが運んでくるのをよく目にします。お店によっては、チャーハンを機械で作る所もありますが給食室ではこの機械が使えると思います。お店の人が本来しなければならないことを、令和の時代ではできなくなっているように感じます。時にはスマホでＱＲコードを読みこんで注文する場所もあります。もしスマホをわすれたらどうするのだろうと思う人もいるでしょう。ＡＩなどの便利な機能を使うのも良いですがコミニュケーションも大事で本物体験がとても大切だと思います。

次は、令和の良いところです。令和は、昔と比べてできることが増えてきました。例えば、駅できっぷを買って電車に乗るということは昭和ではあたりまえでした。しかし今ではきっぷを買わなくても「パスモ」や「スイカ」というカードを使えばすぐ電車に乗車できます。他にも学校でタブレット学習ができたり、カメラでとった写真をカメラ屋さんに持って行かなくてもスマホなどで簡単にさつえいが出来たりなど、出来ることが増えています。

令和の長所もあれば短所もあり、昭和の長所もあれば短所もあると思います。これからの未来は、昭和の古き良き時代と令和の進化の時代が調和すると良いと思います。

タブレットなどデジタルの物を使う回数をへらした方が良い所はへらしたり、反対に人が不べんに感じる所はＡＩなどの工夫が必要だと思います。しかしぼくはそれぞれの時代の良いところをぼくより年上の人たちに知ってほしかったのでこの文を書きました。理由は、しょう来ＡＩを使う時や少し前の人たちがやっていたことをそれぞれ使い分ける時、どちらも使いすぎると手間がかかることもあると思います。なのでぼくより年上のしょう来の夢に近い人たちに知ってほしかったです。

おじいちゃんの笑顔

第三寺島小学校　四年　**吉野　莉愛**

私は、おじいちゃんが大好きです。おじいちゃんは、私が小さいころ、よく

「莉愛は、天才だね。」

と言って、ほめてくれました。

私が一才になるころのことです。ハイハイで段差をおりようとした私は、ゆかにおでこをぶつけてしまいました。そのとき、おじいちゃんが、

「莉愛、後ろ向きでおりるんだよ。」

と、教えてくれました。すると、私は次から段差を後ろ向きでおりるようになったそうです。それを見たおじいちゃんは、

「莉愛は、天才だね。」

と、嬉しそうに笑っていたと、母が教えてくれました。

小さいころの私は、週に一度、お母さんが仕事の日におじいちゃんの家にあずけられていました。おじいちゃんは、いつもニコニコと私を抱っこしてくれました。そして、いつも私にやさしくしてくれました。

そんなおじいちゃんが、二年前、なおらない病気になりました。母からそのことを聞いた時は、とても悲しくて泣いてしまいました。

しばらくして、自宅でとう病中のおじいちゃんに会いに行きました。いつもニコニコとしていたおじいちゃんが、すっかり元気がなくなり、そんなおじいちゃんの顔を見て、私は悲しくて泣きそうになりました。でも、私が泣いている姿を見たら、きっとおじいちゃんが私を心配してしまうと思って、泣くのをぐっとがまんしました。おじいちゃんは、

「莉愛、おじいちゃんがいなくなっても、学校の勉強をがんばるんだよ。おじいちゃんはもうすぐいなくなっちゃうけど、元気でね。」

と言って、やさしく笑ってくれました。私は、
「うん。」
と言うのがやっとでした。おじいちゃんは、私の気持ちが分かったように、少しうなずいて、またやさしく笑いかけてくれました。その時のおじいちゃんの笑顔は、この先もずっと忘れることはできません。

部屋を出た私は、とうとうがまんできずに泣いてしまいました。外で待っていたお父さんが、
「おじいちゃんの前で泣くのをがまんしたんだね。えらかったね。」
と、言ってくれました。私はしばらくお父さんにだきついて泣いていました。

その後、すぐにおじいちゃんは天国に旅立ちました。

私は、そのおじいちゃんの笑顔を思い出して、毎日学校の勉強や習い事を、今までよりももっと一生けん命がんばりました。そうすると、おじいちゃんの
「莉愛は、天才だね。」
という声が、聞こえてくるようです。

私は、これからもおじいちゃんの笑顔と思い出を大切に、がんばっていきます。

あそび大学

中川小学校　四年　**吉岡　紗希**

わたしは、八月十九日から、二十四日まで千葉大学墨田サテライトキャンパスでなつのあそび大学にさん加しました。あそび大学とは、墨田区の町工場から出たそざいを活用して、こどもたちがなにをしても、なにをしなくてもいい自由にあそべる場所です。そこでわたしは、お友達と一週間、アクセサリー屋さんを開くことにしました。

アクセサリーを作るためのざいりょうを買うのに、お金（本物ではなく、あそび大学だけで使えるお金）が必要なので、ハローワークに行ってアルバイトをしょうかいしてもらいました。「みんなのお店」という名前のお店で他の人が作った作品をならべるお仕事をしました。他にもアルバイトをしてざいりょうを買うためのお金を集めました。わたしのお友達もアルバイトをして、二人でお金をためました。

お店を開くためのお金のじゅんびができたので、お友達と相談してたん当を決めました。お友達はアクセサリー作りが上手なので、ざいりょうを仕入れたり、作ったりするたん当です。わたしは、

「社長をやりたい。」
と言いました。
社長の仕事は、アクセサリーのアイデアを出したり、作ったり、売ったりします。そして、売り上げのお金からお店の土地代やおきゅうりょうをはらいました。お店を始めてから三日目に初めて会った子から
「このお店ではたらきたい。」
と言われたので社員が二人ふえました。二人がふえてから、品物を作るスピードが速くなりました。そのかわり、おきゅうりょうも二人分ふえたので、今までよりも売り上げを多くしなければならないのです。そのために、アクセサリーの種類を二種類から五種類にふやしたり、ね下げやサービスをしてたくさん買ってもらえるような工夫をしました。そうしたら、お客さんがふえて売り上げが上がりました。お客さんが買ってくれる時に、
「かわいい。」
と言って買ってくれるのがうれしかったです。
最終日にかたづけをしていると中で今までお仕事をしてきたことが頭にうかんで、自分でもがんばったなと思いました。
あそび大学でお仕事をして強く感じたことは、わたしは一週間しかお仕事をしていないけれど、お母さんとお父さんは、ほとんど毎日お仕事をしているから大変だと思いました。だから、少しでも楽にしてほしいので、お手伝いをもっとがんばろうと思いました。
いっしょにはたらいたお友達やスタッフの人やざいりょうをていきょうしてくれた町工場の人にも感しゃしています。

一学年一クラスのすてきなところ

言問小学校　五年　**林　奏斗**

ぼくの小学校は少人数で、ほとんどの学年が一学年に一クラスしかありません。でも、さみしいことはありません。少人数の学校には、たくさんのすてきなことがあるから、ぼくは大好きです。

すてきなところはいくつかありますが、その一つ目は、クラスの仲間はもちろん、他の学年も含めた学校全部の人と仲良くなれるところです。上級生も下級生もみんなが顔見知りになれるので、すぐに仲良くなれます。休み時間は学年関係なくみんなでいっしょに遊びます。学校みんなが家族のような存在で、毎日が楽しいです。

二つ目は、クラスの友達が一年生の時からずっといっしょで、おたがいのことを良く知っているため、みんなと気心の知れた仲間になれるところです。例えば、授業でみんなで話し合っていろいろなことを決めたりする時に、みんながしっかり意見を出すことができて、良い話し合いができるところが良いところだと思います。また、自分の考えや意見が取り入れられることも多いので、クラスで意見を言ったり、発表したりすることが楽しくなりました。もう一つの例は、いろいろな行事をみんなで心をひとつにして一生懸命やりきることができるところです。去年の学芸会のクラス演劇「じゅげむ」をやったとき、たくさんの役やたくさんのセリフがありましたが、みんなで一生懸命練習して、本番でも無事にやりきることができました。みんなと一年生の時からいっしょにやってきた行事は、全てぼくの宝物になっています。

三つ目は学校の全ての先生方もぼくたち一人ひとりのことをよく知ってくれていて、困ったことがあればすぐに助けてくれるところです。ぼくのクラスの担任の先生だけではなく、他の学年の先生もいつも声をかけてくれたり、勉強を教えてくれたりします。授業中も質問しやすく、わからないことがあればすぐに教えてもらえるし、算数はクラスを分けさらに少人数にしてくれて、より細かく教えてくれるところも良いところだと思います。おかげで、算数が苦手だったのですが、今では得意に

なりました。

お兄ちゃんが行ってる学校は一学年十クラスくらいあって、一クラスの人数でも、ぼくのクラスの倍くらいいると聞いておどろきました。同じ学年の人でも半分も知らないということを聞いて、ぼくの今の学校の良さを知ることができました。大きな学校にも良いところはあると思いますが、ぼくは今の学校が大好きです。少人数だからこそ感じられる一体感や安心感があり、毎日が楽しいです。これからもこのすてきな学校でたくさんのことを学び、成長していきたいと思います。

簡単な魔法

菊川小学校　五年　**野村　佳乃子**

私は月曜日、火曜日、木曜日の朝、通学路にあるマンションの管理人さんに必ず挨拶をしている。この日は、ごみの回収日だからだ。管理人さんはそのマンションの住人の出したごみを外で整理している。

私が、

「おはようございます。」

というと管理人さんも

「おはよう。今日も元気ね。いってらっしゃい。」

と大きな声で返してくれる。

私は挨拶を返してもらえることが嬉しくて朝からとても元気がでる。だから、

「はい、いってきます。」

と返事をして学校へ向かう。

私は小さな頃から母に、近所の方には挨拶を自分からするようにと言われている。もし何かあったときに「野村さんの家の子」と認識してもらえるというのが主な理由である。顔や名前を知ってもらえることで、何か起こったときに助けてもらえると思うと確かに心強い。もちろん、知っている人に挨拶をするのは当たり前というのも理由の一つである。

お隣のお風呂屋さんのおじさんや、いつも日向ぼっこをしながらおしゃべりしているおばあさん、犬のお散歩をしているおじいさんにも「おはようございます。」や「こんにちは。」と大きな声で挨拶をする。すると「おはよう。」や「お帰り。」と返してもらえる。挨拶が返ってくるとやっぱり嬉しくて気持ちがいい。学校でも先生や友達に挨拶をすると

「いい挨拶だね。」

と先生に褒めてもらえたこともある。やっぱり挨拶って気持ち

がいいなと感じる。

また、挨拶は友達とのコミュニケーションの一つにもなる。友達が「おはよう。」と元気な挨拶をしていたら「今日も元気なんだな。」と伝わるし、いつもと違った「おはよう。」だと、「元気がないな」「何かあったのかな」と心配になる。そうすると「どうしたの？」「何かあったの？」と会話が始まる。

以前、道徳の学習で挨拶について考えたことがある。みんなとの意見交流を通して、挨拶は、周りの人を元気にでき、周りを明るくすることができるということが改めて分かった。自分の経験とも重ねると、挨拶をすることでお互いに気持ちがよくなることもよくわかり、やっぱり挨拶ってすばらしいことだと感じた。

挨拶はその一言だけで周りを明るくするだけでなく、相手の様子を知ることができたり、地域の人や友達と仲良くなれたりできるものである。勇気を出せば誰でも使える挨拶は、人と人をつなぐ簡単な魔法の言葉だと私は考える。

だから私はこれからも簡単な魔法をつかって、周りも自分自身も明るくできたらいいなと思う。

「いってらっしゃい！」

第二寺島小学校　五年　**鈴木　駿太**

「いってらっしゃい！」ぼくはこの言葉が大好きです。小さいころからずっと近所のおじいちゃんやおばあちゃん、保育園の先生たちがこの言葉をかけてくれます。この言葉はまほうのようにぼくに元気をくれます。

先日、むかいの家に一人で住んでいたおばあちゃんが亡くなりました。踊りが上手で小さいときに、盆おどりを教えてくれました。そのおばあちゃんが毎朝ぼくにかけてくれた言葉が、「いってらっしゃい！」でした。低学年のころまでは、ぼくもおばあちゃんに負けないくらい大きな声で、「いってきます！」と返事をしていました。だけど最近はなんだかはずかしくて、小さな声で返事をしていました。「いってらっしゃい。」と言ってくれることがとてもうれしかったのに。そのおばあちゃんが亡くなったと家族から聞いたとき、さみしさと同時に悔しい気持ちにもなりました。いつも元気に「いってきます」と言えなくなっていた自分の情けなさと、亡くなる前にもっとたくさんお話ししたかったこと、いつも声をかけてくれてうれしかったことをもう伝えられない悔しさなど、いろんな気持ちがごちゃ

まぜになり涙がぽろぽろでました。おばあちゃんが亡くなった後、おばあちゃんの家族がおばあちゃんの家のあとかたづけにきました。おばあちゃんによく似た人で、母に聞くと「あのおばちゃんは、おばあちゃんのむすめさんだよ。」と教えてくれました。おばちゃんはぼくを見るなり、「こんにちは！今日も暑いね！いってらっしゃい！」と声をかけてくれました。おばあちゃんと同じ大きな声でぼくはちょっとはずかしかったけど、天国にいったおばあちゃんに届くように、大きな声で「いってきます！」といいました。

ぼくはいつもたくさんの地域の人に声をかけてもらいます。「大きくなったね。」、「勉強がんばってる？」などの言葉や、モノマネをしてわらわせてくれる人もいます。卒園した保育園の先生方も、「いつでも遊びにおいで。」と声をかけてくれます。ぼくは、ぼくが住んでいる町とみんなが大好きです。亡くなったおばあちゃんは一人ぐらしでした。もしかしたら、さみしい気持ちや不安な気持ちがあったかもしれません。ぼくはまだ、みんなからやさしさをもらってばかりだけどさみしさや不安な気持ちを持っているのかもしれない人の力になりたいです。そのためにぼくが今できることは、大きな声で「こんにちは！」と声をかけることだと思います。少しはずかしいけれど勇気をくれたおばあちゃんにとどくようにやってみます。ありがとう、おばあちゃん。

私のお兄ちゃん

中川小学校　五年　**淺賀　瑠夏**

私のお兄ちゃんは、しょうがい者です。勉強とコミュニケーションが少し苦手です。お兄ちゃんは私と違う学校に通っています。お兄ちゃんは、支援学校という所に通っていて、そこにはお兄ちゃんと似た人たちや違うしょうがいの人が通っています。

お兄ちゃんと話すとき、小さい頃はおたがいに通じないときがあって困ることもあったけど、今は困ることもなく話せるので、前よりも仲良くなった気がします。

お兄ちゃんの学校の授業参観へお母さんと行きました。そのとき、いろいろな人に会いました。お兄ちゃんと同じような人、五体の一つが欠けている人、ストレスで自分を殴ってしまう人などがいました。その日は、いろいろな人に会えてすごく勉強になりました。

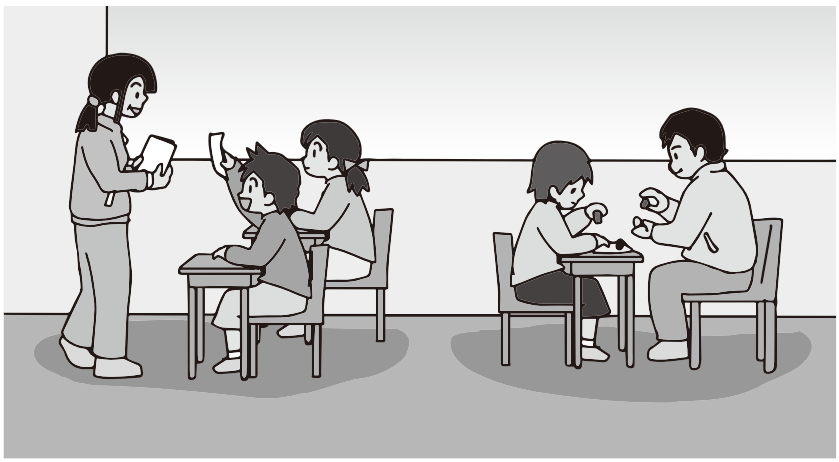
お兄ちゃんはしょうがい者だからこうでないといけないという考えは全くありません。よく、しょうがい者の方は差別され

たり、これはしてはダメとか見たり聞いたりするけれど、それは違うと思います。お兄ちゃんは私の大切な家族であって、他のしょうがい者の家族も同じだと思います。世の中には差別があり、私は差別やいじめなどで苦しむ人たちのニュースを見て悲しくなります。差別をされている人がいたら、助けてあげたいと思っています。同じ人間同士で差別するのはおかしいし、お兄ちゃんにはそんな悲しい思いはしてほしくありません。もし、私がそのような場面にそうぐうしたら、すぐに止めたいです。私が一番いやなのは、男女差別です。女だから、こうしなくてはいけない、○○をしちゃいけない、仕切ってはいけない、などはおかしいと思います。

お兄ちゃんといて、いろいろな事を知りました。しょうがいのこと、差別のこと。今何も知らない人が少しずつ何かをきっかけに知って、それが一人の人からまたもう一人につながっていき、たくさんの人にしょうがい者も同じ一人の人であって、何も違いはないということが当たり前の世界になってほしいです。きっとまだまだ先のことだと思いますが、「しょうがい」という言葉が消えて、健常者、しょうがい者という区別もなくなり、何か苦手や不得意なことがみんなあるから、助け合って差別が自然に消えていったらいいなと思います。

私は将来、保育士になりたいので、しょうがいを抱えている子、その保護者の助けになれるような勉強や資格も取得して世の中が変わるきっかけやつながりをつくっていきたいです。

私は、お兄ちゃんといるのがとても楽しくて、大切な家族なので、これからもおたがいに助け合って毎日笑顔でいたいです。



みんなで支え合っている

錦糸小学校　六年　**桑原　一楓**

「いってらっしゃい。」

この一言が私の毎日の始まりの鐘を鳴らす。毎朝通学路に立ち、あいさつや声がけをしてくれる優しいおじさん。雨が降っている日でも、風が強い日でも、猛暑日でも、休まず毎日立っている。太陽のようなまぶしい笑顔で。本当は朝早くから立つなんて大変だろうに、そんな顔一つ見せず。

しばらくして、私の名前を呼んであいさつをしてくれるようになった。朝のほんの少しの時間で名前を覚えてくれていたなんて。その時は、嬉しさで胸いっぱいになり、元気よくあいさつを返した。そのおじさんは、私と同じマンションに住んでいる。マンション内で会ったときにもあいさつを欠かさずしてくれる。最近は、自分からすすんであいさつをするよう心がけている。おじさんとのあいさつは、私の日課となっている。

梅雨が始まりそうな時期のある朝、いつもの通学路に行くと、おじさんがいなかった。その日はいつもの始まりの鐘はならず、心の中にもやがかかったような気分で過ごした。次の日はいつもと同じようにおじさんは通学路に立っていた。その姿を見て安心した。

「昨日いなかったけれど、大丈夫でしたか。」

「うんもう大丈夫だよ。心配してくれてありがとう。」

といつも以上のまぶしい笑顔で言ってくれた。

この出来事で私は、おじさんがいることを当たり前だったと思っていたことと、私たちの生活はおじさんのような多くの人たちに支えられていることに気づかされた。私たちは、おじさんから声をかけられることによって、今日も頑張ろうという気持ちになる。おじさんには勇気や笑顔をもらっている。おじさんは私たちにとって、感謝すべき存在であり、必要不可欠な存在となっていた。

このように、身近な人に支えてもらっていることを当たり前だと思っていないか。学校で嫌なことがあって落ち込んでいた時、友達にはげましてもらったり、失敗してしまって絶望している時、友達に明るい言葉をかけられて元気付けてもらったり

などのことは、身の回りにたくさんあると思う。そのことに気づけたのなら、まず支えてもらっている人たちに感謝し、自分の出来る範囲で人を支えてあげようという心をもつことが大切だと思う。今まで、私は、おじさんに元気をもらうがわだったけれど、今度は私が、みんなに元気をあげるがわになりたいと思っている。これらのことを、こころがけることで、私たちの生活はより豊かで、明るくなると、私は思う。

人とのふれあいで大事なこと

小梅小学校　六年　**森本　怜誠**

僕は、人とのふれあいにおいて大事だと思うことは、「声かけ」と「あいさつ」です。なぜなら、声かけやあいさつをすると、相手との関係が深まると感じるからです。そうすれば、不安や悩みに苦しむことなく、多くのことがうまくいくようになると思います。

僕は今、ラグビーのクラブチームに所属しています。ある日の試合の時、プレー中にあまり声が出ておらず、チームが一つにまとまっている感じがしませんでした。結局、その試合はそのまま負けてしまいました。しかし別の試合では、大勝することができました。そういった試合は決まってみんなが声を出してチームが一つにまとまっています。点を決めた時にはハイタッチや「ナイス。」、点を取られた時は「ドンマイ。」、「いいよ、大丈夫。」などとたくさんの声が出ています。そういう言葉を聞くと、うまくいった時は「もっといいプレーをしよう」落ち込んだ時は「次こそがんばろう」という気持ちがわいてきます。

「相手に温かい声をかける」ということには、よいものをもっとよくし、悪いものは無くしてしまうという、すごい力があると感じました。

次はあいさつについてです。僕は以前、少しはずかしがってあいさつをしない時もありましたが、あいさつがもつ力に気付いた後はそのはずかしさがなくなり、以前よりもあいさつができるようになりました。エレベーターや街で近所の人にあった時などに、「おはようございます。」や「こんにちは。」などのあいさつを意識してしています。また、学校で友達にも会うたびに「よー。」などと軽いあいさつをしています。すると、自然にお互い笑顔になり、その後の会話もはずみます。

僕が気付いたあいさつの力とは、人の心を開くきっかけになる力があるということです。自分があいさつされた時も感じま

すが、あいさつがあるだけで、その人との距離感がとても近くなる感じがします。

最後は、あいさつが見ず知らずの人とも自分をつなげてくれた経験です。家族で旅行に行った時、ある魚屋さんへ買い物に行きました。僕がお店の人にあいさつをすると、お店の人は笑顔で「この魚、脂がのっていて美味しいよ。」とおすすめしてくれました。しかも値引きもしてくれたので、「ありがとうございます。」と言うと、値引きをしてくれたお店の人の方が喜んでいました。最後は商売とは関係のない旅行の話になり、何だか知り合いという気がするほどでした。

僕はこれらの経験から、人とふれあうということは、あいさつや声かけなどのコミュニケーションをとることだと思いました。そこから信頼関係が築かれ、よりつながりが深まるのだと思います。僕はこれからもたくさんの人に声をかけ、あいさつをし、信頼関係を深めていきたいと思います。

日本と世界の架け橋に

業平小学校　六年　**岡本　瑛介**

僕は四歳からイギリスとルクセンブルクに住み、去年日本に帰国した。日本の空港から出た時の蒸し暑さにびっくりし、今まで住んでいた国との違いを実感した。日本で生活するうちに、他の違いにも気付いていった。

例えば、海外にいた時は、みんな学校以外ではあまり勉強していなかったが、日本ではほとんどの人が塾などに行って勉強している。ヨーロッパの友達は大半の人が放課後はスポーツや音楽などの勉強以外の活動をしていた。

他にも、日本の学校には決まりがたくさんあるが、僕が以前行っていた学校は、ルールがすごく緩やかだった。授業中に先生の許可なく水を飲んだり、教室で座る席を自由に決められたりした。また、宿題が無いので放課後をどう過ごすのかが自分次第だった。希望すれば、授業と関係のないことであっても発表させてもらえた。僕は、希望して授業中、バイオリンを弾いたり、国連についてのプレゼンテーションをしたりしたことがあり、良い経験になった。

また、日本の学校では先生の指示の下で行動することが多い

が、ヨーロッパでは先生の指示は最低限で、あとは自分の判断で行動する。僕はサッカーや野球などのスポーツが好きでよく観戦するが、日本と海外のプレースタイルの違いは学校生活の過ごし方が影響しているかもしれない。海外のスポーツ選手は、自由にプレーし独創性が高く判断力がある。一方で自分勝手なプレーをして、チームワークが発揮できないこともある。日本の選手は一人一人が自分勝手に行動しないので、チームワークを発揮しやすい。

他に気が付いた違いは、授業中、日本の小学生は手を挙げて指されてから発言するが、ヨーロッパの小学生は先生が止めるくらい競うように発言する。日本人は促されてから発言するので、同時に複数の人が話して混乱することは無いが、意見を発信することが多くないため、大事な機会を失っていると思う。良いアイデアがあれば、積極的に発言してみんなに共有するべきだと思う。ヨーロッパの人は相手の話をじっくり聞かず人の話に割り込むことも多いが、いいアイデアや面白い意見を次々に発信して共有する。僕が以前行っていた学校で、地球温暖化対策として給食で肉を出さない日を設けようと提案したところ、その案が採用された。積極的に発言して良かったと思った。

日本に帰国後、日本とヨーロッパの違いに気付き、どちらにも良い面と悪い面があると感じている。住んでいる国が変わるたびに、言葉やふるまい方の違いに対応するのに苦労してきたが、そのおかげで日本と海外両方の長所を知ることができた。両方の良い面を取り入れながら成長して、世界中の人と、相手を理解しながら触れ合えるようになりたい。

本物のつながりって何だろう？

両国小学校　六年　**俵　潤**

みなさんは、誰かとインターネットでのつながりを持っていますか。近年、色々なＳＮＳが普及しています。そのため、誰かとインターネットでやり取りをする機会は多々あります。その中で、インターネットをきっかけに、顔も本名も知らない人と画面の中でだけつながることも少なくないでしょう。

確かにインターネットは、いつでもどこでも誰とでも、手軽につながることのできる、とても便利なものです。でも、私はインターネットの中でのコミュニケーションには足りないものがあると思います。そう思うようになったのは、コミュニケーションについて考えさせられる出来事があったからです。

私が母と家にいて、窓を網戸にしていた時のことです。隣の

ベランダから声が聞こえてきました。声の主は隣に住んでいるおばあさんで、ベランダに出たところ何かの拍子に鍵が閉まり、閉じこめられてしまったとのことでした。お隣さんは一人暮らしなので、中から鍵を開けてもらうことができません。幸い、近所に住んでいる娘さんが合鍵を持っているそうだったので、母の携帯電話で連絡し、娘さんを待ちました。

私は、娘さんを待つ間のお隣さんとの会話を通して、直接コミュニケーションを取ることの大切さを感じました。例えばお隣さんは、

「本当にありがとう！命拾いしたわぁ。」

と笑顔で話していたけれど、表情はこわばり気味、手は震えていて、声も若干うわずっていました。きっとお隣さんは、突然ベランダに閉じこめられ、一人でどうなってしまうのかと、とても心細く不安だったのだと思います。このとき私は、言葉にはしていないことや言い表せない気持ちなど、表情や仕草、声色でしか伝わらないことがあるのだと実感しました。さらに、雑談をするうちに段々とお隣さんの表情が和らいでいったのです。それを見て、直接相手と顔を合わせて話をすると、人は安心し心が和むのだな、と感じました。もし私がお隣さんの立場だったとしても、ＳＮＳ上で助けを求めて画面を見ながら一人で待つより、誰かと話しながら待つ方が何倍も心強かったと思います。

インターネットには、いつでもどこでも誰とでも、手軽につながれるというメリットがある一方、相手の表情や仕草、声色がわからないというデメリットがあります。笑った絵文字が送られてきたからといって、画面の向こうの相手も笑っているとは限りません。

「離れていても、連絡とれるから大丈夫！」

直接会うことのない画面上だけのつながりは、果たして本当のつながりなのでしょうか。インターネットやＳＮＳは本来、直接のつながりを支えるためのものなのに、最近ではその中でつながるためのものとして使われている気がします。私は、両方のつながりを大切にしながら、上手に使っていきたいです。

言葉で伝えていく

錦糸中学校　一年　**坂井　紀心**

みなさんは、障害のある方についてどのように思っていますか。

私は障害のある方に対して、自分と同じ人間で一生懸命生きているのだから普通に接していこう、差別するのは良くないことだと感じています。このように思っているからこそ障害のある方を嫌ったり、差別したりする人がいない世の中にしたいと考えました。そこで、差別をなくすために自分なりにどのような方法があるか考えてみました。

この間、駅のホームで車椅子に乗った男の人が電車に乗るのに困っていました。その様子を見ていた高校生が陰で笑ったり、コソコソ何かを話したりしていました。その高校生も車椅子の男の人と同じ電車に乗り、車内でその人に「そこ邪魔なのでどいてください」と文句を言い放っていました。車椅子の男の人は困惑しながらも高校生の近くから離れようとしました。そのとき近くにいた小学生の子が、高校生に向って「なんで、どかなきゃいけないの？誰にも迷惑かけてないよ。邪魔って言うお兄さんが、違う列車に行けばいいんじゃない？」と冷静に言っていました。その姿を見た私も周りの大人たちも感心していました。

それを見て、私は自分にも困っている人を助ける勇気が必要だと改めて感じました。

また、その高校生の様子を見て世の中にはまだ障害のある方を嫌っている人がいるのだなと思いました。障害のある方を嫌う人たちを少なくするには、まず障害のある方について知ってもらったり、実際に車椅子に乗って障害のある方はどのようなことが大変なのか体験したりすることが重要だと思いました。このような取り組みを行うことで少しは障害のある方の大変さがわかると思います。また、この大変さがわかった後に、「邪魔」などの傷つく言葉を言われたら自分はどのような気持ちになるのか考えると良いと思いました。実際に障害のある方の大変さを知るためにそのような体験を行っている学校もあります。私も一度体験したことがありました。その時は、視覚障害の方がどれだけ大変なのか体験しました。目の前が真っ暗で、音や

点字ブロックだけを頼りに道路を歩きました。その時、目が見えないだけでこんなにも日常生活が変わるのだと驚きの気持ちがありました。

このような体験を活かして、障害のある方たちの大変さを伝えていきたいと思いました。そして、障害のある方たちはなりたくてなっているのではないということも差別する人に伝えていけたら良いと感じています。一人一人が障害のある方について知ることで差別がなくなったり、嫌ったりする人がいなくなるかもしれません。障害のある方について知り、学んだことをみなさんも周りに伝えていってみてください。

私の理解者

桜堤中学校　一年　**奥泉　風香**

私には生まれつき障がいがあります。生まれてすぐ、新生児スクリーニング検査があり、再検査になりました。その後、大きな病院で検査をして、私の両耳が聞こえないことがわかりました。

そして私は、生後六ヶ月から練馬区にある「聴こえとことばの教室」に入室して、勉強を始めました。私はまだ赤ちゃんだったので、その時の事は全く覚えていません。ですが、初めて補聴器をつけた時は音に驚いて泣いていたようです。補聴器をつけても私の聴力では言葉が分からず、三才八ヶ月で左耳の人工内耳手術を受けました。それから必死に言葉の勉強をして、たくさん話せるようになりました。

その後、公立小学校に入学できる事になりましたが、補聴器をしていても大丈夫か、みんなと上手く話せるか、補聴器のことを聞かれてしまう、など不安でいっぱいでした。でも、みんな私の障がいを気にせずにたくさん話しかけてくれました。

三年生の時、「どうして私だけ補聴器をしているの。補聴器なんて恥ずかしい。」と母に言ったことがあります。そんな時母は、「恥ずかしい事ではないよ。目が悪いからメガネをかける、耳が悪いから補聴器をつける、一緒でしょう。」と話してくれて、気持ちが少し楽になりました。

小学校ではクラスで障がい理解の授業をしてくれました。みんなが難聴の体験をしたり、聴覚障がいについて考えてくれました。

小さな声や、後ろからの呼びかけなどは聞こえない時がある事、授業中も先生の声がうまく聞き取れない事など難聴者の聴こえ方について、知ってもらう事ができました。それからは、

周りの友達が先生の言った事を教えてくれるようになりました。また、人工内耳と補聴器を外し、全く音が聞こえないプールの時間は、肩を叩いてくれたり、ジェスチャーをして教えてくれたりしました。

進学を機に環境が変わり、また不安な気持ちになりましたが、クラスの友達や先生方も優しく、理解してくれる事がとても嬉しいです。これから、もっと多くの人と話をして、みんなと仲良くなりたいです。

そして家族も私の理解者で、いつも応援をしてくれています。特に、姉は小さい頃から難聴児への話し方を母に教わって、たくさん話してくれたり、遊んでくれたりします。今では時々勉強も教わっています。聴こえとことばの教室の合宿にも一緒に参加してくれたこともあり、今では私のように障がいのある子ども達を支援したいと特別支援学校の先生になるために大学に通っています。

私は将来、イラストレーターになりたいと考えています。そして、姉と一緒にボランティア活動をして障がいのある人達を私の描いた絵で笑顔にすることが私の夢です。

自分の気持ちと向き合って

吾嬬立花中学校　一年　**髙井　はる**

私はよく、何かうまくいかなかったり、できなかったりすると「自分は何もできない」と自分に言い聞かせてしまいます。落ち込んでまた自分を追い込んで、を繰り返し、悲しい気持ちや辛い気持ちがあふれてきたときには、家族、特に母にその気持ちをぶつけてしまいます。その後にいつも一人で後悔して、本当は思ってもいないようなことを自分に言い聞かせてしまうのです。

私は中学校に入ってから、家で急に何かに悲しくなったり、辛くなったりするようになりました。自分でも何が原因でこのようになってしまうのかわかりません。そのため、立ち直ろうとしても、理由がなく悲しくなっている自分に余計にイライラし、どうしたらいいかわからなくなることが起こるようになりました。そのとき、母は毎回「どうしたの」と聞いてくれます。しかし、自分でもどう話したらいいか、気持ちや状況を言葉にすることができず反抗的な態度をとってしまいます。自ら突き放して母が離れていってしまうと、自分の態度を後悔するのに、私は逆に「自分が頑張っても意味ないし。」と言ってしまいます。

それでも母は、私の気持ちを一緒に寄り添って考えてくれます。母だって私がこんなことを言って悲しい気持ちや怒りたい気持ちになっているはずなのに、「大丈夫だから。」と言ってそばにいて、「家族は一番の味方」と言い聞かせてくれます。この言葉を聞くと、気持ちがだんだんと落ち着いていきます。できなくても、失敗しても、家族はずっと味方でいてくれるから、あきらめないようにしようと思えます。その言葉は私にとって、魔法の言葉です。

私がいつか、「自分にはできない」と思わなくなるように、たとえ思ってしまっても、自分で立ち直ることができるようになりたいと思っています。そして母に、「私の気持ちにずっと向き合い続けてくれてありがとう。」と素直に言えるようになりたいです。まだ落ち込んでしまうこともあるけれど、「家族は自分の味方だから、一人ではないんだ」と思って、いろいろなことに挑戦していこうと思います。

母がかけてくれた言葉によって、あきらめずに頑張ってみようと思えたように、私もいつか誰かの心の支えになるような言葉をかけられるようになりたいと思っています。一人で生きていくことができないからこそ、言葉をかけ合い、支え合って生きていくことが大切だと考えています。

中学校　二年生の部

朝のあいさつ

本所中学校　二年　**照沼　陽奈**

「おはよう、いってらっしゃい。」

私の地域には毎朝旗を振りながら見守りをしている菊地さんという方がいます。菊地さんは私が小さい時から毎朝、同じ場所で地域の方のために旗振りをしています。そして、道を通る人に笑顔であいさつをしていて、私はその明るさで笑顔になります。

菊地さんは高齢者で杖もついているのですが、元気で前向きで毎朝あいさつをしているのが本当にかっこいいです。また、菊地さんは雨の日でも暑い日でも、どんな日でも私たちを見守ってくれています。そんな菊地さんを私は心から尊敬します。

去年の春、私は小学生から中学生になり、制服の姿で菊地さんにあいさつをしました。すると菊地さんに笑顔で、

「中学生か、もうお姉さんだねぇ。」

と言われました。菊地さんはすごく嬉しそうな顔をしていました。私は毎朝ずっと、菊地さんがしてくれるあいさつと笑顔で元気をもらっていました。そこで今度は成長した私が菊地さんに元気をあげられるようなあいさつをしたいとその時思ったのです。

それから私は、あいさつを大切にするようになりました。元気に笑顔であいさつをし、近所の方にも自ら進んであいさつができるようになりました。

私は今、中学二年生ですが毎日笑顔で、

「おはようございます。」

と菊地さんに言えています。

私は菊地さんにあいさつを通じて、あいさつは人を笑顔にし、元気にさせ、そして心を温かくすることができると学びました。私はその学んだことを活かして人を笑顔にさせて将来、あいさつを通して色々な人たちと交流をしていきたいです。

菊地さんは高齢ですが、地域の人々を元気づけています。いつまでも元気で、旗振りを続けてもらえたら嬉しいです。

菊地さんに負けないよう私もがんばります。

「祖母と曾祖母の姿から・・・・」

桜堤中学校　二年　**守屋　寛太**

「上原さん、起き上がらないで下さい。寝ましょう。」私の曾祖母は94歳。これは私がお正月に祖母の家に泊まりに行った時のでき事です。「ばばの言う事は全然聞いてくれないから、〝上原さん〟と呼んでディサービスのスタッフのふりをしているのよ。」と祖母は言いました。曾祖母は元気ですが、90歳を越えた頃から足が弱り、誰かの支えがなければすぐに転倒して一人では歩けません。又、認知症も発症して「自分が歩けない」現実を理解していない様でした。普段はディサービスに通っていますが、お正月はお休みで祖母が24時間つきっきりの介護をしておりました。食事の準備も、曾祖母がいつベッドから起き上がるか分からないため、なかなか取りかかれません。私は何か手伝えないかと考え、弟と共に「ディサービスのスタッフになりきろう。」と考えました。「上原さん、寝て下さい。」と言うと素直に横になりますが、一分もたたないうちに起き上がりました。弟と交代で何度も声をかけました。私達も最初は優しく、「上原さん。」と声をかけていましたが、何度も繰り返すうちに、口調が荒くなってきました。たった数10分の事ながら「正直いつまでやればよいのか。はやく祖母の料理が終わらないものか。」と待ち遠しくさえ感じました。こんな少しの時間でも大変で嫌でたまりませんでした。「祖母はなぜあそこまで面倒を見られるのか」と不思議に思い尋ねました。「こんなに大変なら施設に入れる事を考えないの？」祖母は「まだまだ会話も成り立つし、落ちついて起き上がらない時もあるのよ。ばばの名前と顔も一度も忘れた事もない。きっと施設に入れたらばばの名前を呼んだり。〝帰りたい〟‼」と騒ぐと思うんだ。それを思うととても施設に入れられない。最期まで家で看るつもり…。」と、考えを伝えてくれました。家族や親戚中が祖母のストレスや身体の負担を心配して入所を真剣に進めました。時々泊まりにくる私達には分からない、祖母の気持ちや感情があるのだろう。同時に血のつながりの不思議さも感じて、祖母の考えを初めて知りました。しかし、祖母の心身の負担もかなりきついと思います。介護される側のケアは勿論の事、介護する側のケアもそれ以上に大切なのではないかと考えました。

介護に終りは見えません。日本は高齢化が進み世界中の家族がかかえる問題でしょう。今までは元気で私を可愛いがってくれる曾祖母の印象しかありませんでした。今は長生きして欲し

いと願っています。私は家族の一員として、介護に関心を持ち手伝えることは動き、役に立てる様になりたいのです。「老い」は私達一人一人に必ずやってきます。家族みんなで支え合い助け合って介護の負担も分けあって、曾祖母が幸福な生涯を全うできる様に、心からつくしたい。現実から目をそむけずに向き合ってまいります。

笑顔の花

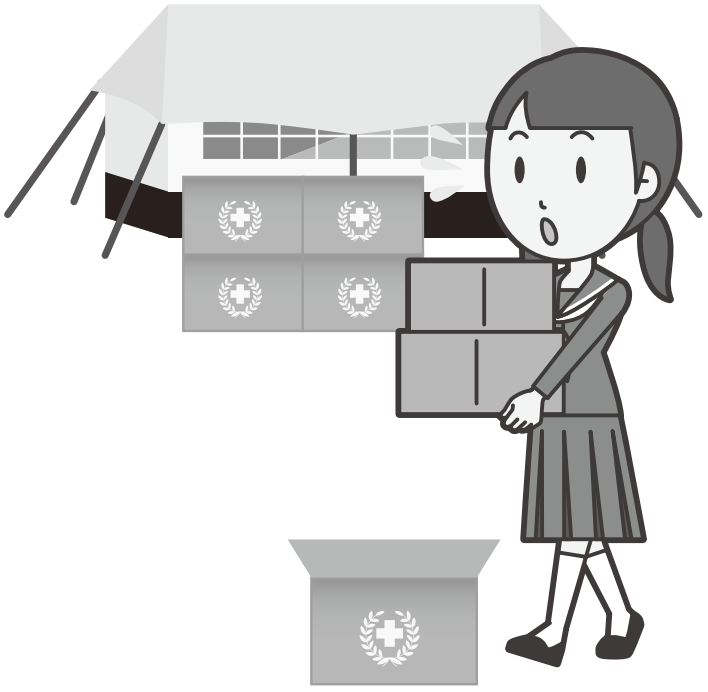
吾嬬立花中学校　二年　**山田　凜**

みなさんは普段から積極的に行動できていますか。

今年の夏休み、私は初めて八月十七日から十八日の間、生徒会として青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンターに参加し、赤十字や国際理解、災害など多くの事を学び、今までにないたくさんの貴重な経験をしました。今回の合宿は元々二泊三日の予定でしたが、台風の影響でプログラムが短縮され、一泊二日で行われました。私は始め、初めての環境で、初めましての人がたくさんいる中、慣れていけるかという不安な気持ち、さらに、一泊二日になり、十分に充実できるかドキドキした気持ちでいっぱいでした。しかし会場に向かう時には、たくさんの荷物を持ち、私と同じように少し心配そうな表情を浮かべている人が何人かいて、同じ気持ちの人は自分だけではないという安心感と、「この人と一緒に過ごすのかな」というワクワクした気持ちでいっぱいになりました。無事に会場に着き、開会式が始まると、先生は「気づき、考え、実行する」というこの合宿での合言葉を紹介してくれました。私は初めてこの合言葉を聞いた時は、この合宿とどのような関係があるかあまり理解できませんでした。そのまま開会式が終わると、色々な人が話しかけてくれて、気がついたらたくさんの友達ができていました。そんな新しくできた友達と過ごしていく中で、二日目に行われたフィールドワークがとても印象に残っています。このプログラムでは、同じチームの人達と協力し、様々なミッションに取り組みました。視覚障害者の体験や車いす乗車体験、布を使った止血の仕方などこのプログラムを通して、みんなとの絆を深めながら学ぶことができました。ですが、私はただ学んだだけではなく、このプログラムで行われたミッションでの大切な共通点を見つけることができました。それは「どの体験も、いざとなった時に困っている人を助けられるようになるための一歩」ということです。自分で実際に体験することで、今まで知らなかったことに気づけたり、初めてみる視点から物事

を考えられるようになりました。これまでの生活を振り返ると、困っている人がいるのは気づいていても、体験したように、積極的に助けられたことは少なかったんだなと思いました。

私は今回の合宿を通して、合言葉である、「気づき、考え、実行する」ということの大切さに気づくことができたと思います。自分から積極的に行動をしないと、新しい出会いがなく、色々なことに対して悔いが残ってしまうと分かりました。今まで、気づいても中々実行できる勇気がでず、結局役に立てなかった経験をした人もたくさんいると思います。ですが、私は生徒会として行動することの大切さを広め、世の中に笑顔の花をたくさん咲かせられるように頑張りたいと思いました。



中学校　三年生の部

「ありがたい」を意識して

両国中学校　三年　**井苅　晄土**

古語を覚えることなんて、英単語の暗記に比べたら簡単だろうと思っていた。しかしいざ始めてみると、これがとても難しい。現代でも似た意味で使われる言葉ならともかく、そうではない言葉が数多くある。「つつむ」が「気がひける」だったり「めでたし」が、「美しい」だったり、頭がついていかない。中でも「有り難い」という言葉。「めったにない」という意味だが、「ありがとう」という言葉に惑わされ暗記に苦労した。

調べてみると「有り難い」はそもそも仏教用語で、「あることが難しい」という意味から「めったにないこと」という意味に転じたらしい。さらに時が流れ「めったいないことは感謝に値する。」というニュアンスが加わり、「ありがとう」という言葉に繋がったと書かれていた。とても興味深い内容で、面白い。

ただ古語の暗記に苦戦していたある日、私は母と喧嘩をした。きっかけはささいなことだったが、ずっとためていたイライラが爆発したのか、母に長い時間説教されてしまった。要約すると私には感謝の気持ちが足りないこと、自分は当たり前だと思っていても、それは世間では当たり前とは限らないということを理解させたかったようだ。反発はしたものの冷静になって考えてみると、今年の夏休みは受験生ということもあり、確かに色々と大目に見てもらっている。家の手伝いらしいこともしておらず、自分の身のまわりのことさえやってもらうことが多かった。母の高圧的な言い方にも問題があったと思うが、申し訳ない気持ちになって翌日、謝ることにした。

「当たり前にやってもらえると思うと、人間は勘違いして感謝を忘れてしまう。当たり前ではないことだと思うと自然に感謝の気持ちが湧いてきて、無意識に『ありがとう』と言っちゃうし、態度に表れるのよ。」

とその時母が話してくれた。

人間は感謝の気持ちを持つことで、脳内から幸せな気持ちなどが分泌されるようだ。そうすると物事が上手く運び始めたり、人間関係がよくなったり、私たちに様々な嬉しい効果がもたらされる。「ありがとう」は感謝を表す簡潔な言葉だが、伝える

人も伝えられる人も幸せな気持になれるパワーワードだ。この言葉を使うことで、いいことが起こるなら積極的に使っていきたい。そのためには、いつも感謝の気持ちを忘れてはいけない、と母に叱られたことで気付いた。誰かがしてくれることも、誰かとの出会いも、大切なことに気付くことも「めったにないありがたい」ことなのだ。全く意味が違うと思っていた古語と現代語だが、同じ日本語。もとをたどればつながっている。何だか自信が湧いてきて、もう一度単語帳をやり直す気持ちになった。ただ、「有り難い」に関しては、「ありがとう」という言葉のおかげで今後忘れることはない。

挨拶で心と心が通じる世界へ

竪川中学校　三年　**國安　さくら**

祖父がいる施設には、利用者さんやご家族の方々、そしてスタッフさんたちがいます。私はそこで、あるスタッフさんが一人の利用者さんと挨拶を交わし、その後にこう言ったのを見ました。

「今日もお元気そうですね。」

私はびっくりしました。スタッフさんが挨拶だけで、元気かどうかを指摘したからです。

私は、そのスタッフさんに話しかけてみました。

「挨拶だけで相手の状態がわかるなんて、すごいですね。」

するとスタッフさんはこう答えました。

「私たちの仕事は、利用者さんの少しの変化も見逃してはいけません。なので、挨拶の声や表情、その他の繊細なことでも見つけられるように心がけているんですよ。」

その言葉を聞いて、スタッフさんは、ただ挨拶をしているだけではないということがわかりました。

私はどうだろうと思いました。家族、友達、学校の先生や地域の人に、相手のことを深く考えた挨拶ができているのでしょうか。

そこで、私は相手を意識して挨拶をするようにしてみました。すると、だんだん相手の様子が見えるようになってきました。同じ人でもその時によって全然違うのです。例えば、疲れていると声が小さかったり、逆に何か楽しみなことがあると、明るく元気だったり。挨拶だけで、相手がどのような状態なのか、どのような気持ちなのかがわかるのです。スタッフさんの言う通りだと思いました。

再び祖父のところを訪ねた時、今度は相手の様子を意識しな

がら挨拶をしてみようと思いました。知らないスタッフさんや利用者さん、その家族の方々……。勇気を出して、「明るい気持ちになってほしい。」という気持ちで挨拶をすると、私が挨拶をした人全員が笑顔で挨拶を返してくれました。私の思いが挨拶に乗って相手に届き、相手も挨拶に思いを乗せて返してくれたのだと感じました。

挨拶はただ一言の言葉です。形式的にただ交わすだけでももちろん意味があります。さらに、お互いが相手の心や体を思いながら挨拶を交わすならば、挨拶でお互いに相手を思いやることができます。例えば、相手の体や心の不調に気づいて、相手の助けになることもできるかもしれないのです。

人を思いやるような挨拶が、家族や学校、地域など様々な場所で広がり、やがて世界中がそんな挨拶をするようになれば、思いやりの気持ちも世界中に広がっていくと思います。世界中が相手を思いやるようになれば戦争だってなくなるかもしれません。お互いがお互いを思いやること、それは心と心が通じ合うことです。まずは身近な人から、挨拶で心を繋いでいこうと思います。

忙しい日常が教えてくれたこと

桜堤中学校　三年　**野口　素世香**

中学三年生になって初めての定期テストが近づいてきたある日、長時間の勉強でストレスが溜まっていた私は小さなことで母と揉めてしまった。「夕食の支度、皆手伝っているんだから協力しなさい。」そう言われて私は「塾の宿題終わってないの！見たらわかるでしょ？だからできない。」と冷たくあたってしまった。そしていつしか会話はヒートアップしていき、母に「そんなにイライラしているなら夕食も食べなくていい！好きにしなさい。」その言葉で怒りがピークに達した私は「うるさい。黙っててよ！」と言い放ちドアを勢いよく閉めた。家族にあたってしまうのは情けない、忙しさを言い訳にギリギリまで塾の宿題をサボっていたのは自分ではないか、わかっていてもどこにも発散できない怒りが頭から離れなかった。次第に涙もでてくる。そんな状況のまま、ひとまず塾へ行くことにした。

ヘトヘトでお腹を空かせた状態で家に帰るとラップされたご飯が用意してある。時間が経って温かくはなくなっているがいつも忘れず用意してくれている母の手料理だった。それを食べながら、私は今までの生活について一人で振り返っていた。思

えばこの約二年間を母にどれだけ支えられて生活してきたか。

塾で帰るのが遅くなった日も、部屋に入れば美味しいご飯をラップして待ってくれていたこと、高い塾代も「本当にできるのー？」と言いつつ出してくれたこと、定期テストがある日の朝は必ず「結果がどうなろうと人生が終わるわけではない。リラックスして行ってきな。」と安心させてくれたこと、悩みや相談があるときは真剣に聞いてくれたこと、他にも数えきれないほど母には支えられてきた。私は自分のことにばかり精一杯で感謝を全く伝えられずにいた。そう感じると、私は母の部屋まで走っていた。

部屋に入ると母はいつも通りの笑顔で音楽を聴いている。私が来たのを確認すると「おかえり。お疲れ様。頑張ったね！」と温かい言葉をかけてくれた。その言葉に安心した私は、定期テスト前にも関わらず久しぶりに母とアニメや学校の話題で盛り上がった。いつの間にか疲れた心は満たされてやっと母に「いつもありがとう。」と伝える事ができた。

私はまだ受験生になって、三か月しか経っていない。しかしその間だけでも両親に反抗しては落ち込んでそれでもまた勉強、と忙しい毎日が続いている。ただ忙しさが教えてくれたのは〝辛い〟という感情ばかりではない。

支えてくれている家族がいるということ、決して一人ではないことを再確認させてくれた。私はこれからも一人ではないことを忘れず自分も仲間も大切に生活していくことを心がけたい。今、そう思うことができた。

佳作一覧

【小学校の部】

◎小学校1年生の部

やさしいこころ　緑小学校　室野　湊音
えがおのボランティア　二葉小学校　星　美夕子
みんなでできているせかい　錦糸小学校　小倉　超智
だいすきなパパ　中和小学校　八田莉乃葉
ぼくのかぞく　言問小学校　永島　政高
おとうとがうまれるまで　小梅小学校　松野　幸平
おかあさんへ　柳島小学校　齊藤　玄理
わたしのおばあちゃん　業平小学校　竹下　朝
ぼくのかぞく　両国小学校　上田　淳平
かんりにんさんへ　横川小学校　皆川　遥香
がくどうのドッジボール　第四吾嬬小学校　今野　蓮唯
さいがいにそなえよう　第三寺島小学校　大野　泰知
おにいちゃんといっしょ　曳舟小学校　蔦木　京華
えだまめのしゅうかく　中川小学校　鈴木　遥太
おねえちゃんといっしょ　東吾嬬小学校　本橋乃々子
げんきにうまれてきてね　押上小学校　菅原奈乃羽
にゅういんのこと　八広小学校　栁　翼空
とうこうはんとじちかい　隅田小学校　榎本　愛凛
たいいんしたみーちゃん　梅若小学校　青柳　沙耶

◎小学校2年生の部

サッカーせん手になったら　緑小学校　熊谷　航
あきらめない　外手小学校　山崎　滉人
ぼんおどり　二葉小学校　岸塚　環
一つ下の妹とわたし　中和小学校　根里　真弥
ぼくのいなか　言問小学校　木下　瑞貴
ラグビーのコーチ　小梅小学校　鹿島　創喜
ようちゃんにハグ　柳島小学校　齋木　脩
みんなとドッジボール　両国小学校　西村　春香
あのときすきになったよ　横川小学校　木村　恭子
大すきなラジオ体そう　菊川小学校　平田　夏唯
ディズニーシーのホテルにとまって思ったこと　第三吾嬬小学校　矢代　此花
大きな声で元気にあいさつ　第一寺島小学校　河本　鈴菜
お母さんとりょうり　曳舟小学校　松井　彩圭
おせわする兄ちゃん　中川小学校　内田　俊幸
ひがしあずまのしゅごしん　東吾嬬小学校　梅田　悠生
わたしと弟のとくべつなきずなとまほう　押上小学校　松島　世莉
「ありがとう」をつたえたい　八広小学校　山澤　朱璃

はる早く生まれて　隅田小学校　鈴田　華
人と人とのふれあい　梅若小学校　大島　來実

◎小学校3年生の部

お祭りでの人と人とのふれ合い　緑小学校　隅田　統馬
僕のサポーター　外手小学校　山脇　壮太
私のおうえんだん　二葉小学校　小野　光璃
大好きなお祭り　錦糸小学校　志水　風音
いつもありがとう　言問小学校　大西　平
人と人とのふれあい　小梅小学校　石黒　薫
「ありがとう」の気持ち　柳島小学校　加藤　颯
バンビーノが大好き！　業平小学校　澤口　拓海
友だちをいっぱい作る　両国小学校　杓谷　澪
ピアノのコンクール　横川小学校　具志堅　紬
家ぞくのきずな　菊川小学校　小代　梨乃
習い事の年上の友達とのかかわり　第三吾嬬小学校　佐藤　縁
やさしい気持ち　第二寺島小学校　石井　朝陽
ライバルだけど友だち　第三寺島小学校　岡田　浩輔
がんばった自転車の練習　曳舟小学校　森本　実結
私の大切な妹　中川小学校　西村　心
はじめての引っこし　東吾嬬小学校　川口　結護
大すきなヒーロー　押上小学校　市田　都和
家ぞくとのけんか　隅田小学校　石井　一海
わたしの家ぞく　梅若小学校　髙橋　凛

◎小学校4年生の部

弟のダウン症との向き合い　緑小学校　熊﨑　大和
新しい命　外手小学校　岩﨑ちなみ
自信がなかったぼく　二葉小学校　大越谷煌樹
ぼくの大切な人　錦糸小学校　長沼　奏汰
思い出すきっかけになった本　中和小学校　久保田実夏
少年野球での人とのつながり　言問小学校　金井　陽
コーチと私　小梅小学校　鹿島　遙花
言葉が通じないなか　柳島小学校　宇野津颯斗
那須のたっきゅう大会　横川小学校　本山　優衣
家族の大変さを知って変わったこと　菊川小学校　渡邊　未空
パン屋さんのお姉さん　第三吾嬬小学校　上森あかり
じじ大好きだよ　第四吾嬬小学校　菊地　空汰
心は通じ合える　第一寺島小学校　町山　いと
わたしが努力していきたいこと　曳舟小学校　M　・　I
その一言があったから　東吾嬬小学校　菊池　武尊
町会の盆おどり　押上小学校　長谷川　慶

大好きな「りくくん」とかい主さん　八広小学校　八巻　花楓
がんばっている人にありがとう　隅田小学校　田中　葵
ボッチャでつながる　立花吾嬬の森小学校　藤本　麻衣
すみだ子どもＰＲ大使について　梅若小学校　加藤　湊
◎小学校５年生の部
ぼくのじいじの好きな所　緑小学校　古澤　智也
あいさつから生まれた物　外手小学校　金子　陽郁
公園へ恩返し　錦糸小学校　須貝　莉央
あいさつの大切さ　中和小学校　山﨑　弥々
保育園のボランティアで学んだこと　小梅小学校　齋藤　渚
笑顔の大切さ　柳島小学校　樋口　凛香
回覧板　業平小学校　河野　陽大
ドッジボールで広がるふれあい　両国小学校　須藤　楓果
楽しかった夏の思い出　横川小学校　岩城　詩
うら方の仕事　第三吾嬬小学校　前野　怜南
ぼくの成長に関わった人　第四吾嬬小学校　大川　稜平
バスケが教えてくれたこと　第一寺島小学校　近藤　茅希
私と祖父　第三寺島小学校　木内ことね
資源回収と私　曳舟小学校　岩崎　心琴
人と人との関わり　東吾嬬小学校　小川　汐夏
通り一本入った路地のお付き合い　押上小学校　坪谷なつめ
不安のない地域　八広小学校　近藤優里佳
料理を通して学んだこと　隅田小学校　江川　穂愛
思い出の新人戦　立花吾嬬の森小学校　田代孝太朗
人のやさしさにふれて　梅若小学校　松野　茜音
◎小学校６年生の部
会話で大切なこと　緑小学校　宮沢　京花
弟は赤ちゃん　外手小学校　永井　鼓春
地域を盛り上げられる人に…　二葉小学校　片　龍乃介
大切な一本の線　中和小学校　石橋　翼
一つ一つの言葉で　言問小学校　中村　叶実
命の大切さ　柳島小学校　甲斐田真央
私と親せき　横川小学校　畑中　悠那
人と人との助け合い　菊川小学校　赤堀　陽仁
犬が築く地域の関わり　第三吾嬬小学校　深川　葵衣
命の大切さ　第四吾嬬小学校　長沢　茜
一週間の貴重な経験　第一寺島小学校　高橋　亜実
友達がいる大切さ　第二寺島小学校　相模　優菜
電車で会った人達　第三寺島小学校　豊岡　快
深い絆と協調性　曳舟小学校　前田　遥翔

ぼくを守ってくれる人たち　中川小学校　種永　亘希
最高の友達　東吾嬬小学校　川口　泰治
助け合い　押上小学校　島田　考輝
ラジオ体操　八広小学校　山下　杏
大好きなおばあちゃんのために　隅田小学校　守屋　希唯
互いに協力し、努力を重ねていくこと　梅若小学校　対崎　祐美

【中学校の部】

◎中学校1年生の部

話すことが少し苦手な私は　墨田中学校　小椋　美結
この夏、学んだこと　本所中学校　村岡　凛
けがから知った大切なこと　竪川中学校　三嶋実和子
家族がいることの大切さ　吾嬬第二中学校　高荷　祐羽
空手を通して得たもの　寺島中学校　山澤凛太郎
ありがとう　文花中学校　池之内梨名

◎中学校2年生の部

リーダーとフォロワー　墨田中学校　中村　栞
支え合い　両国中学校　島田　紗良
人助けの本質　錦糸中学校　下重妃奈乃
能登半島地震ボランティアをうけて　吾嬬第二中学校　速水南都子
犬を通じてのふれあい　寺島中学校　松原　和花
強い認識を　文花中学校　中村　未来

◎中学校3年生の部

挨拶のつながり　墨田中学校　倉持　真凛
コロナ禍の入院で感じたこと　錦糸中学校　山口　維心
抱っこ　吾嬬第二中学校　足利　りら
下町のつながり　寺島中学校　内藤　稜貴
感謝　文花中学校　織井　悠大
言葉の重み　吾嬬立花中学校　谷川　陽夏

講　評

経験こそが、自らの考えを広げ、深める

驚きです、感心しました。経験・体験したことから問題点を発見し、解決に向けて課題を設定・実践していく「子供たちの課題解決力」に、ただただ感服するばかりです。健全育成作文のどまんなか、まさに「一丁目一番地」ともいえる「家族愛・地域愛」をテーマにした作品はもちろん、今日的な教育課題でもあるＩＣＴ活用に関する作品、グローバルな視点から自分の考えを堂々と述べた作品、ジェンダー問題に真正面から向き合った作品等々、多様かつダイナミックな経験と価値観に基づいた作文の数々に圧倒された審査員は、私だけではないはずです。

さてここで、各学年の最優秀作品について講評をいたします。小学校一年生「わたしのじまんのいいちゃま」は、筆者の曾祖父である「いいちゃま」との思い出、曾祖父の葬儀に参列した人々の言葉から感じ取ったその偉大さ（やさしさとかっこよさ）について述べた作品です。二年生「ぼくのお母さん」は、病による後遺症がある母を思いやり生活のフォローをする筆者のけなげな姿、そして母がいるから自分はやさしくなれるのだという言葉が感動的な作品でした。三年生「家族の大切さ」は、単身赴任の父親から学んだ互いを思いやる姿と、家族全員が一緒に暮らす「あたりまえの生活」の愛おしさについて述べた作品です。四年生の「勇気をくれたおまじない」は、海外生活から帰国した際の苦労から学んだこと、自分の考えを勇気をもって堂々と伝えれば、互いを理解し合うことができることを力強く述べています。五年生「一緒に食べる幸せ」では、手作り唐揚げを祖母と「一緒に食べる」楽しさ、給食や宿泊学習で友達と「一緒に食べる」幸せを感じた筆者が、食事を通して生まれる人との絆を大切にしていくと、力強く宣言しています。六年生「忙しい仕事を頑張る父」は、単身赴任にもかかわらず仕事・サッカーコーチ・祭りの年番と、八面六臂の活躍をみせる父の姿を描いています。人と協力して物事をやり遂げていく尊敬する父の姿が印象的です。中学校一年生「未来へ繋ぐ、命のバトン」は、愛する祖母の病をきっかけに「命」というものを哲学的に捉え始めた筆者の姿を描いています。人間社会の中で繋がれてきた「命のバトン」をリレーしていく覚悟はたいへん頼もしいものです。二年生「またチャンスはやってくる」は、ある選考に不合格となった挫折からどのように立ち直ったのか、自分の心境の変化を丁寧に描写するとともに、次のチャンスに向けて前向きに努力する勇気を与えてくれた先生への感謝がつづられています。三年生「私の特別なおばあちゃん」は、向かいに住む「3人目のおばあちゃん」とのふれあいを暖かなタッチで描いています。幼少期からの長いお付き合いによって生まれた信頼関係と深い感謝のエピソードは、まさに下町・すみだの「人情の縮図」ともいえましょう。

結びとなりましたが、区内各地域で青少年健全育成活動にご尽力いただいている皆様方や、本コンクール開催にあたりお力添えをいただきました関係団体の皆様方に御礼を申し上げ、講評といたします。

墨田区立小学校教育研究会国語部長
墨田区立第四吾嬬小学校長　清水雅也

令和六年度青少年健全育成作文コンクール審査員一覧

（敬称略）

西村紀子	墨中地区青少年育成委員会委員長	小学1年
矢澤大輔	墨田区立小学校ＰＴＡ協議会会長	小学1年
櫻井陽子	両中地区青少年育成委員会	小学1年
白石祐一	本中地区青少年育成委員会委員長	小学2年
原　美和	竪中地区青少年育成委員会	小学2年
加藤才智	墨田区青少年委員協議会	小学2年
堀口義晃	寺中地区青少年育成委員会委員長	小学3年
小野俊一	墨田区青少年委員協議会会長	小学3年
泉　和典	吾嬬二中地区青少年育成委員会	小学3年
市川　清	文花中地区青少年育成委員会委員長	小学4年
安藤玲子	本中地区青少年育成委員会	小学4年
明石由美	寺中地区青少年育成委員会	小学4年
小林厚子	錦中地区青少年育成委員会委員長	小学5年
小澤裕二	墨田区少年団体連合会会長	小学5年

中村　恵	文花中地区青少年育成委員会	小学5年
山口仁美	両中地区青少年育成委員会委員長	小学6年
小川政美	吾嬬立花中地区青少年育成委員会	小学6年
清水雅也	墨田区立第四吾嬬小学校長	小学6年
吉澤利雄	吾嬬立花中地区青少年育成委員会委員長	中学1年
中山善光	墨田区立中学校ＰＴＡ連合会会長	中学1年
八嶋祐輔	墨中地区青少年育成委員会	中学1年
阿部修三	竪中地区青少年育成委員会委員長	中学2年
坂井正廣	吾嬬二中地区青少年育成委員会委員長	中学2年
畠山恵美子	錦中地区青少年育成委員会	中学2年
長谷川　豊	桜堤中地区青少年育成委員会委員長	中学3年
北里公一	桜堤中地区青少年育成委員会	中学3年
駒田るみ子	墨田区立吾嬬第二中学校校長	中学3年

令和７年３月

墨田区教育委員会事務局
地域教育支援課地域教育支援担当

〒130-8640　墨田区吾妻橋１－23－20
電話　03（5608）6503

ひと、つながる。
墨田区